

2009年度

講義計画

桃山学院大学

語義學

語義學

語義學

語義學

科目名 クラス 講義区分	
社会科学文献演習 [2] 09 <春>	
清水 夏樹	2単位

【講義概要】

近年、TVアニメや映画などジャパニーズ・クールと称されるように、このジャンルの作品群が国際的に高評価を得ている。それらを潜在的な文化資源とみ、知的財産権の対象とする動きも出ている。このようにSub、すなわち“下位の文化”の一言で片づけられない側面をふまえて、以下各自関心項目を設定してもらおう（例＝現代音楽、オカルト・宗教ブーム、漫画・アニメドラマ、メディア文化等）。

－6、70年代以降の各年限サイクルに照し、若年世代の心理の反映や流行への反応度を照射する手がかりとして、現代社会の動態と諸相をよみとくコードを各自なりにたぐり寄せてほしい。

【学習目標】

サブカルチャーという既成の文化・社会の枠から、外縁・下位にあったものが、しだいに脚光を浴び、やがてはメイン中心域にまで迫る。その動態―ダイナミクスに留意し、自分なりに社会、歴史、文化への関心をたかめる努力を忘れないこと

【講義計画】

- 第1回 大衆社会から小衆・分衆社会へ
- 第2回 6－70年代から80年代へ、文化現象をとらえる準拠枠
- 第3回 聖・俗・遊フレームⅠ、青年文化と成人社会
- 第4回 “ ” Ⅱ、「聖」「遊」連合から「聖」なるものの「遊」化へ
- 第5回 “ ” Ⅲ 「遊」の肥大化現象
- 第6回 8－90年代 以上をふまえてのsubculturalな背景
- 第7回 “ ” 高度消費社会と高度情報化のインパクト
- 第8回 “ ” 高度情報化ともの、言葉、メッセージ
- 第9回 「しらけ」から「おたく」へ。消費社会の文化とシンボル論
- 第10回 「おたく」再解釈 サブカルチャーの記号論的解釈
- 第11回 セルフ・アイデンティティをめぐる問題情況。自分さがし、癒し系
- 第12回 同じく自分さがし―物語化、つくり手のモチーフ、アニメ・ドラマ
- 第13回 ゲームソフトの量産と〈セカイ〉系をめぐる問題
- 第14回 セカイ系と現実世界、かい離と触発、接点と切点
- 第15回 インターネット空間と現実再帰性、セルフリアレンス

【成績評価の方法】

期末の提出レポートを主たる評点の対象とするほか、そのつど課す簡易レポート。出席時の学習態度（発言、等）読書意欲等を配慮し加味する。

【備考】

講義中に随時紹介・呈示する

科目名 クラス 講義区分	
社会科学文献演習 [2] 11 <秋>	
山内 乾史	2単位

【講義概要】

本講義では、現代の社会学的問題中、若者と教育に関する文献を中心に購読します。特に今年度は社会の階層化と教育、結婚の二つテーマに基づき文献を講読します。

【学習目標】

この文献演習では、社会における教育の役割、学校の役割を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会学的なものの方の見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。これらも、かなり視聴して頂くことになります。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション―講義の概要説明・割り当て決定・レジュメの書き方の指導―
- 第2回 社会階層、若者の教育と結婚に関する概説
- 第3回 第1文献講読(1)
- 第4回 第1文献講読(2)
- 第5回 第1文献講読(3)
- 第6回 第1文献講読(4)
- 第7回 第2文献講読(1)
- 第8回 第2文献講読(2)
- 第9回 第2文献講読(3)
- 第10回 第2文献講読(4)
- 第11回 第3文献講読(1)
- 第12回 第3文献講読(2)
- 第13回 第3文献講読(3)
- 第14回 第3文献講読(4)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 0% 出席 100%
発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。試験やレポートは課しません。

【教科書】

門倉貴史 セックス格差社会 宝島社
文献は私の方でコピーしますので、購入の必要はありません。
尾木直樹・森永卓郎 教育格差の真実 小学館
文献は私の方でコピーしますので、購入の必要はありません。
福地誠 教育格差が日本を没落させる 洋泉社
文献は私の方でコピーしますので、購入の必要はありません。

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 12 <秋>	
渡 部 美穂子	2単位

【講義概要】

社会心理学では、私たちの身近に起こる問題が数多く取り上げられている。研究者たちは、自分が日常生活の中で感じる疑問からヒントを得て先行研究にあたり、研究テーマを深化させてゆくのである。受講生のみなさんには、研究者の卵としておもに文献検索と情報収集について学び、あわせて他の受講生にもその情報を共有してもらえようプレゼンテーションを行ってもらおう。

【学習目標】

自らの関心に沿った情報を収集し、先行研究をひもとくこと、それを他の受講生にわかりやすく説明するためにはどのようにすればよいのか、について学ぶことがこの演習の目標である。また、受講生が互いに評価しあうことによって、より深くプレゼンテーションの問題点を理解してもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション(1)
- 第2回 情報収集について(1)
- 第3回 情報収集について(2)
- 第4回 文献検索について
- 第5回 レジュメ作成について
- 第6回 プレゼンテーションについて
- 第7回 プレゼンテーションと評価(1)
- 第8回 プレゼンテーションと評価(2)
- 第9回 プレゼンテーションと評価(3)
- 第10回 プレゼンテーションと評価(4)
- 第11回 プレゼンテーションと評価(5)
- 第12回 プレゼンテーションと評価(6)
- 第13回 プレゼンテーションと評価(7)
- 第14回 プレゼンテーションと評価(8)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

発表内容と議論への参加の程度を考課の材料とする。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 13 <秋>	
池 田 知 加	2単位

【講義概要】

テキストは「個」と「社会」をどのようにしてリンクして考えるかについて書かれているものです。一つはヘーゲルの仕事をとおして、もう一つはジンメルの仕事をとおして。いずれも、入門書の形態をとっているテキストです。テキストを輪読しますが、担当者を決めてレジュメを作成してもらいます。担当者の報告の後、みなで議論をしていく、という形ですすめていきます。また、ジンメルの「橋と扉」を読んでレポートを提出してもらいます。

【学習目標】

テキストを読むことで、個人の問題を社会とどのようにつなげるかを考えることを目標にします。また、ヘーゲルやジンメルが生きた時代を考えることで「近代」という時代がいったいどんな問題をかかえていたのか、どんな新しい考え方をもたらしたかなども学んでほしいと思います。

【講義計画】

- 第1回 授業の進め方と担当者を決めます。
- 第2回 報告と討論
- 第3回 報告と討論
- 第4回 報告と討論
- 第5回 報告と討論
- 第6回 報告と討論
- 第7回 報告と討論
- 第8回 報告と討論
- 第9回 報告と討論
- 第10回 報告と討論
- 第11回 報告と討論
- 第12回 報告と討論
- 第13回 報告と討論
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

【教科書】

西研 ヘーゲル・大人のなりかた 日本放送出版協会
菅野仁 ジンメル・つながりの哲学 日本放送出版協会

【参考文献】

授業で適宜紹介します。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習〔2〕 14<秋>	
藤田 悟	2単位

【講義概要】

現在、中学、高校、そして大学でも、1945年8月15日以降の日本の歴史、いわゆる「戦後」について学ぶ機会は少ない。この講義では、日本語文献の輪読・発表を通じて、戦後日本の民主主義を支えた思想と運動について学んでいく。

【学習目標】

文献の内容理解を深めてもらうことはもちろんですが、レジュメの作り方、発表の仕方、議論の作法なども身に付けてほしいと思います。活発な議論を期待しています。

【講義計画】

第1回 使用予定テキスト

日高六郎『戦後思想を考える』岩波新書、1980年。

久野収『市民主義の成立』春秋社、1996年。

小田実『世直しの倫理と論理 上・下』岩波新書、1972年。

以上の3冊の中から1冊ないし2冊を選び、輪読を行う。テキストはこちらで用意しますので購入の必要はありません。

ガイダンス

第2回 テキスト輪読

第3回 テキスト輪読

第4回 テキスト輪読

第5回 テキスト輪読

第6回 テキスト輪読

第7回 テキスト輪読

第8回 テキスト輪読

第9回 テキスト輪読

第10回 テキスト輪読

第11回 テキスト輪読

第12回 テキスト輪読

第13回 テキスト輪読

第14回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート、発表、議論の内容を総合的に判断して評価する。

科目名 クラス 講義区分	
社会思想史 <春集>	
梅田 百合香	4単位

【講義概要】

本講義は、近代から現代にいたるまでの西洋の社会思想史の流れを、「政治と宗教」、「戦争と平和」、「近代思想と現代思想」という大きなテーマから分析を行う。その際、各思想家の議論の特徴および思想家間の批判と継承の相互連関について、当時の政治・経済・社会状況および国際関係をおさえながら考察する。すなわち近代思想の基点ともいえるホッブズ、ロック、ルソーの社会契約論を見直し、そのうえで、近代の諸問題を乗り越えようとしたシュトラウス、アレントおよびネグリの現代思想との比較検討を行なう。これによって、近代思想に対する現代思想の対決のあり方を解明し、現代の我々が構築すべき人間と社会を認識するための視点を追求する。

【学習目標】

現代社会と現代世界を批判的に認識する視点と問題を克服するための独創的な構想力を養うことを目標とする。なお彼らの思想は、ユダヤ・キリスト教思想および古代ギリシア・ローマ思想の伝統を批判的に継承するなかで形成されたものである。それゆえ、彼らの思想を理解するためには、それらについての一定の素養が必要である。この点は、宗教や歴史に関する映像資料によって補完する。したがって、講義の構成は、前半で思想の理論的考察を行い、後半でそれらの思想の背景にあるユダヤ・キリスト教思想および古代ギリシア・ローマ思想の伝統に関連する映像資料を視聴し、思想と現代社会について多角的に学ぶことになる。

【講義計画】

第1回 講義ガイダンス（方針、評価、イントロダクション）

第2回 ホッブズ(1)人物・時代背景Ⅰ

第3回 ホッブズ(2)人物・時代背景Ⅱ

第4回 ホッブズ(3)理論分析Ⅰ

第5回 ホッブズ(4)理論分析Ⅱ

第6回 ホッブズ(5)現代的意義と課題

第7回 ロック(1)人物・時代背景Ⅰ

第8回 ロック(2)人物・時代背景Ⅱ

第9回 ロック(3)理論分析Ⅰ

第10回 ロック(4)理論分析Ⅱ

第11回 ロック(5)現代的意義と課題

第12回 ルソー(1)人物・時代背景Ⅰ

第13回 ルソー(2)人物・時代背景Ⅱ

第14回 ルソー(3)理論分析Ⅰ

第15回 ルソー(4)理論分析Ⅱ

第16回 ルソー(5)現代的意義と課題

第17回 中間試験（小テスト）

第18回 戦争と平和(1)グロティウスとホッブズ

第19回 戦争と平和(2)ホッブズとロック

第20回 アレント(1)政治と社会、自由と労働

第21回 アレント(2)社会契約論

第22回 アレント(3)人権、革命、連邦制

第23回 シュトラウス(1)近代批判と自然権の復権

第24回 シュトラウス(2)自然科学と道徳

第25回 シュトラウス(3)アメリカ合衆国

第26回 ネグリ(1)〈帝国〉

第27回 ネグリ(2)マルチチュード

第28回 ネグリ(3)近代とポストモダンの世界観

第29回 試験

【成績評価の方法】

試験 80%

中間試験（前半第16回までの範囲の小テスト）20%、期末試験

80%。

中間試験はできるだけ受験することが望ましいが、就職活動などでやむをえず受けられない場合でも、期末試験（80点満点）で60点以上獲得すれば単位の取得はできる。

【教科書】

特定の教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

【備考】

なお、授業計画については、受講者の理解度や進行状況等によって変更する場合がある。

科目名	クラス	講義区分
社会心理学 <春集>		
岩田	考	4単位

【講義概要】

社会心理学は、人間の行動を、社会との関わりに着目しつつ研究する学問です。大別すると、「個人の心理的な過程」に焦点を当てる心理学的アプローチと「マクロな視点から個人と社会の関わり」を研究する社会学的なアプローチの二つがみられます。本講義は、社会学を学ぶ学生向けの講義であり、「社会学的な」社会心理学が中心となります。

【学習目標】

社会学を学んでいくうえで重要となる社会心理学の基礎的な概念や理論を身につけてもらうことが目標です。「心理学的な」社会心理学や関連した心理学の成果について講義する場合がありますが、社会学的研究への寄与を常に念頭においたものです。社会心理学を学ぶことによって、社会学と心理学の差違と共通性を把握し、社会学への理解を深めることを目的としています。「純粹」な心理学の講義を期待される方には向きませんので、注意してください。

【講義計画】

- 第1回 講義の概要
- 第2回 社会心理学とは
- 第3回 対人関係(1) 対人関係をめぐる現代的〈問題〉：関係の希薄化を中心に
- 第4回 対人関係(2) 映像から対人関係について考える
- 第5回 対人関係(3) 心理学的アプローチからみた対人関係の現代的特質
- 第6回 対人関係(4) 社会学的アプローチからみた対人関係の現代的特質
- 第7回 対人関係(5) 対人関係と電子メディア
- 第8回 自己(1) 自己をめぐる現代的〈問題〉：「不確かな自己」を中心に
- 第9回 自己(2) 映像から対人関係について考える
- 第10回 自己(3) 心理学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
- 第11回 自己(4) 社会学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
- 第12回 自己(5) 対人関係と電子メディア
- 第13回 集団と組織(1) 集団とは・個人と集団における意志決定
- 第14回 集団と組織(2) 映像から集団における意志決定について考える
- 第15回 集団と組織(3) 集団における課題遂行と集団間差別
- 第16回 流行と集合行動(1) 集合とは・流行とは
- 第17回 流行と集合行動(2) 映像から現代の流行について考える
- 第18回 流行と集合行動(3) 集合行動とは
- 第19回 マス・コミュニケーション(1) マス・コミュニケーションとは
- 第20回 マス・コミュニケーション(2) 映像からマス・メディアの効果について考える
- 第21回 マス・コミュニケーション(3) マス・メディアの効果
- 第22回 情報化(1) 情報化の光と影
- 第23回 情報化(2) 映像から情報化の光と影について考える
- 第24回 情報化(3) 情報化とネットワーク：社会関係資本論からみた情報化
- 第25回 心理学化・心理主義化(1) 心理主義化する社会
- 第26回 心理学化・心理主義化(2) 映像から心理主義化について考える
- 第27回 心理学化・心理主義化(3) 心理学化と社会学化
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

基本的には学期末試験(100%)で評価しますが、任意で提出してもらったレポート等も加味します。また、みなさんの学習状況によっては小テストを行い、学期末試験の評価全体における割合を低くする可能性があります。

【教科書】

必要な資料は各講義で配付する予定ですが、初回講義時に教科書を指定する可能性があります。

【参考文献】

浅野智彦編 2006『検証・若者の変貌－失われた十年の後に－』勁草書房

安藤清志ほか著 1995『現代心理学入門4 社会心理学』岩波書店
橋元良明編 2008『メディア・コミュニケーション学』大修館書店
池田知子・遠藤由美 1998『グラフィック 社会心理学』サイエンス社
岩田考ほか編 2006『若者たちのコミュニケーション・サバイバル－親密さのゆくえ』恒星社厚生閣
末永俊郎・安藤清志編 1998『現代社会心理学』東京大学出版会
『シリーズ情報環境と社会心理1－8』北樹出版
『ニューセンチュリー社会心理学1－6巻』北樹出版
『対人社会心理学重要研究集1－7』誠信書房
※その他、講義中に適宜紹介します。

科目名 クラス 講義区分	
社会政策総論 <通期>	
大 西 祥 恵	4単位

【講義概要】

将来的にどんな道を歩むのかということを決めるのは誰にとっても難しい。とはいえ、人生における重大な局面で、自らの歩む道を主体的に選択するためには、社会における諸制度がどのようになっているのかという点を最低限理解しておかなければならないだろう。こうした制度には、労働条件や労働市場に関する諸制度、収入が途絶えた際に重要な役割を果たす年金制度、病気やけがをした際に活用する医療制度、セイフティ・ネットと位置づけられている生活保護制度などが含まれている。本講義では、これらの諸制度についてしっかりと学ぶ。

【学習目標】

本講義の目的は、社会政策にかかわる諸制度と自らの生活との関わりについて具体的に把握することである。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス 社会政策研究の系譜
- 第2回 労働基準(1) 労働基準の出発点と現状
- 第3回 労働基準(2) 労働基準の現状
- 第4回 労働基準(3) 労働基準の課題
- 第5回 労働市場(1) 労働市場政策の成立と展開
- 第6回 労働市場(2) 消極的労働市場政策
- 第7回 労働市場(3) 積極的労働市場政策
- 第8回 労働市場(4) 非正規労働の拡大と今後の課題
- 第9回 企業社会(1) 企業社会と日本的経営
- 第10回 企業社会(2) 法人企業—会社法モデル—
- 第11回 企業社会(3) 法人企業—共同体モデル—
- 第12回 企業社会(4) 企業社会のゆくえ
- 第13回 年金(1) 年金制度の体系
- 第14回 年金(2) 財政方式
- 第15回 年金(3) 八五年改革の位相
- 第16回 年金(4) 相次ぐ年金改革
- 第17回 年金(5) 近年の動向と課題
- 第18回 医療(1) 医療制度の体系
- 第19回 医療(2) 健康保険制度の成立と展開
- 第20回 医療(3) 国民健康保険制度の成立と展開
- 第21回 医療(4) 高齢社会と医療保障制度改革
- 第22回 公的扶助(1) 生活保護制度の成立と展開
- 第23回 公的扶助(2) 不定住者と外国人
- 第24回 公的扶助(3) 「適正化」問題と扶養
- 第25回 公的扶助(4) 貧困線と基本的ニーズ
- 第26回 家族的責任(1) 家族的責任とアンパイド・ワーク
- 第27回 家族的責任(2) 性別雇用管理と家族単位の社会保障制度
- 第28回 家族的責任(3) 家族を支える政策
- 第29回 調整日(1)
- 第30回 調整日(2)

【成績評価の方法】

試験、講義中におこなう取り組み、出席状況および出席態度などにて評価する。また、若干の加点を目的とした任意提出のレポートを設定する。

【教科書】

玉井金五・大森真紀編著『三訂 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社

【参考文献】

椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障:福祉を学ぶ人へ』(最新版)有斐閣。
その他、講義中に指示することがある。

科目名 クラス 講義区分	
社会調査A 01<春>	
竹 中 英 紀	2単位

【講義概要】

この科目では《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などの基本的な事項を、実際の調査例にもとづきながら学んでいく。これらは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習・演習に直接結びつくばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【学習目標】

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程(=調査過程)に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較をとおして社会の構造にせまる視角(量的調査法)、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へとむかう視角(質的調査法)、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

【講義計画】

- 第1回 現代社会と社会調査
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 第4回 社会調査の種類と既存データの活用
- 第5回 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 第6回 測定と分析の基礎②記述と説明
- 第7回 測定と分析の基礎③仮説の構成
- 第8回 量的調査①テーマと仮説
- 第9回 量的調査②質問文の作成
- 第10回 量的調査③サンプリングの論理
- 第11回 量的調査④質問紙調査の実際
- 第12回 質的調査①聴き取り調査
- 第13回 質的調査②ドキュメント分析
- 第14回 質的調査③参与観察
- 第15回 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

全回出席を原則とし、授業中の小テスト・小レポート60%、期末試験40%の割合で成績を評価する。

やむをえない理由で遅刻・欠席した場合は、証明書または報告書を提出すれば、その具体的な内容と緊急性の度合いに応じて考慮する場合がある。ただし考慮の対象は、遅刻・欠席を合わせて、全授業回数の3分の1以内=4回までとする。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- [1] 谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書、2007年。
- [2] 佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、2006年。
- [3] 宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書、2004年。

【備考】

<02~08生>の【SS・SW生】のみ履修可

さ
行

科目名	クラス	講義区分
社会調査A 02<秋>		
岩田	考	2単位

【講義概要】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

【学習目標】

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 第1回 現代社会と社会調査
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 第4回 社会調査の種類と既存データの活用
- 第5回 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 第6回 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 第7回 測定と分析の基礎③記述と説明
- 第8回 量的調査①種類と方法
- 第9回 量的調査②サンプリングの論理
- 第10回 量的調査③質問文の作成
- 第11回 量的調査④調査票調査の実際
- 第12回 質的調査①聴き取り調査
- 第13回 質的調査②ドキュメント分析
- 第14回 質的調査③参与観察
- 第15回 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

基本的には、作業への取り組みと提出課題（30%）と学期末試験（70%）で評価します。ただし、レポート（任意）の評価も加味します。

【教科書】

大谷信介ほか編著 社会調査へのアプローチ [第2版] ミネルヴァ書房

【参考文献】

- 森岡清志編著 2007『ガイドブック社会調査』[第2版] 日本評論社
- 佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社
- 辻大介2008「世代や世相の文化への視座－量的アプローチと質的アプローチ－」南田勝也・辻泉編著『文化社会学の視座』ミネルヴァ書房
- ハンス・ザイゼル 2005『数字で語る－社会統計学入門－』新曜社
- ※その他、講義中に適宜紹介します。

【備考】

<02～09生>の【SS生】及び<02～08生>の【SW生】のみ履修可

科目名	クラス	講義区分
社会調査A 03<秋>		
過	放	2単位

【講義概要】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

【学習目標】

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 第1回 現代社会と社会調査
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 第4回 社会調査の種類と既存データの活用
- 第5回 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 第6回 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 第7回 測定と分析の基礎③記述と説明
- 第8回 量的調査①種類と方法
- 第9回 量的調査②サンプリングの論理
- 第10回 量的調査③質問文の作成
- 第11回 量的調査④調査票調査の実際
- 第12回 質的調査①聴き取り調査
- 第13回 質的調査②ドキュメント分析
- 第14回 質的調査③参与観察
- 第15回 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

【備考】

<02～09生>の【SS生】及び<02～08生>の【SW生】のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
社会調査A 04 <秋>	
大 倉 季 久	2単位

【講義概要】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

【学習目標】

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 第1回 現代社会と社会調査
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 第4回 社会調査の種類と既存データの活用
- 第5回 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 第6回 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 第7回 測定と分析の基礎③記述と説明
- 第8回 量的調査①種類と方法
- 第9回 量的調査②サンプリングの論理
- 第10回 量的調査③質問文の作成
- 第11回 量的調査④調査票調査の実際
- 第12回 質的調査①聴き取り調査
- 第13回 質的調査②ドキュメント分析
- 第14回 質的調査③参与観察
- 第15回 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席と最終試験によって評価する。詳細は第1回の授業時に説明する。

【教科書】

大谷信介ほか編著 社会調査へのアプローチ [第2版] ミネルヴァ書房

【参考文献】

石川淳志ほか編『見えないものを見る力：社会調査という認識』八千代出版（1998年）.
佐藤郁哉『フィールドワーク [増補版]』新曜社（2006年）.
その他、適宜指示する。

【備考】

<02～09生>の【SS生】及び<02～08生>の【SW生】のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
社会調査A 05 <秋>	
木 島 由 昌	2単位

【講義概要】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

【学習目標】

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 第1回 現代社会と社会調査
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 第4回 社会調査の種類と既存データの活用
- 第5回 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 第6回 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 第7回 測定と分析の基礎③記述と説明
- 第8回 量的調査①種類と方法
- 第9回 量的調査②サンプリングの論理
- 第10回 量的調査③質問文の作成
- 第11回 量的調査④調査票調査の実際
- 第12回 質的調査①聴き取り調査
- 第13回 質的調査②ドキュメント分析
- 第14回 質的調査③参与観察
- 第15回 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。詳細については初回の授業で説明する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

【備考】

<02～09生>の【SS生】及び<02～08生>の【SW生】のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
社会調査A 06<秋>	
木下栄二	2単位

【講義概要】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解することとともに、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護の重要性などについて講義する。

【学習目標】

社会福祉の実践のためには、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、さらに、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、社会福祉の現場での必須能力の習得であるとともに、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- | | | |
|------|----|-------------------------|
| 第1回 | 1 | 社会調査の意義と目的 |
| 第2回 | 2 | 社会調査の歴史 |
| 第3回 | 3 | 社会調査における倫理 |
| 第4回 | 4 | 社会調査における個人情報保護 |
| 第5回 | 5 | 社会調査の実施に当たってのITの活用方法 |
| 第6回 | 6 | 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数・仮説 |
| 第7回 | 7 | 測定と分析の基礎②記述と説明 |
| 第8回 | 8 | 統計法① 基本統計量と記述統計 |
| 第9回 | 9 | 統計法② クロス表と相関係数 |
| 第10回 | 10 | 量的調査の方法①種類と方法 |
| 第11回 | 11 | 量的調査の方法②サンプリングの論理 |
| 第12回 | 12 | 量的調査の方法③質問文の作成 |
| 第13回 | 13 | 質的調査の方法①聴き取り調査 |
| 第14回 | 14 | 質的調査の方法②ドキュメント分析 |
| 第15回 | 15 | 質的調査の方法③参与観察 |

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 15% 出席 15%
最終試験のほか、出席点、レポート点を加味して評価する。詳細は最初の講義にて説明する。

【教科書】

大谷信介ほか 社会調査へのアプローチ（第2版） ミネルヴァ書房

【備考】

<02～08生>の【SS生】及び<02～09生>の【SW生】のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
社会調査B 01<春>	
竹中英紀	2単位

【講義概要】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙調査を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【学習目標】

社会調査とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、それはなぜか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この授業では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心にもとづいて実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

【講義計画】

- | | |
|------|-------------|
| 第1回 | 社会調査の企画・設計 |
| 第2回 | 社会調査の実施方法 |
| 第3回 | 問題意識の絞り込み |
| 第4回 | 仮説の検討 |
| 第5回 | 質問文の作成 |
| 第6回 | 調査票の完成 |
| 第7回 | サンプリングの方法 |
| 第8回 | 調査の実施手順 |
| 第9回 | 調査票の配布と回収 |
| 第10回 | 調査データの整理 |
| 第11回 | データ集計の基礎 |
| 第12回 | 統計的検定と仮説の検証 |
| 第13回 | 分析結果の発表 |
| 第14回 | 発表へのコメント |
| 第15回 | 調査報告書の書き方 |

【成績評価の方法】

全回出席を単位認定のための必須条件とし、授業中の小テスト・小レポート（70%）と学期末の調査レポート（30%）とで成績を評価する。

グループ作業を行なうので、遅刻・欠席は原則として認めない。やむをえない理由がある場合にかぎり、事前に連絡のうえ、証明書または報告書を提出すれば、その具体的な内容と緊急性の度合いに応じて考慮する場合がある。ただし考慮の対象は、遅刻・欠席を合わせて全授業回数の3分の1以内＝4回までとする。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- [1] 谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書、2007年。
- [2] 佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、2006年。
- [3] 宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書、2004年。

科目名 クラス 講義区分	
社会調査B 02 <春>	
大 倉 季 久	2単位

【講義概要】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

【学習目標】

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 第1回 社会調査の企画・設計
- 第2回 社会調査の実施方法
- 第3回 問題意識の絞り込み
- 第4回 仮説の検討
- 第5回 質問文の作成
- 第6回 調査票の完成
- 第7回 サンプリングの方法
- 第8回 調査の実施手順
- 第9回 調査票の配布と回収
- 第10回 調査データの整理
- 第11回 データ集計の基礎
- 第12回 統計的検定と仮説の検証
- 第13回 分析結果の発表
- 第14回 発表へのコメント
- 第15回 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況および、共同作業への参加度、個別レポート、筆記試験によって評価する。詳細は第1回の授業時に説明する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

科目名 クラス 講義区分	
社会調査B 03 <春>	
過 放	2単位

【講義概要】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

【学習目標】

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 第1回 社会調査の企画・設計
- 第2回 社会調査の実施方法
- 第3回 問題意識の絞り込み
- 第4回 仮説の検討
- 第5回 質問文の作成
- 第6回 調査票の完成
- 第7回 サンプリングの方法
- 第8回 調査の実施手順
- 第9回 調査票の配布と回収
- 第10回 調査データの整理
- 第11回 データ集計の基礎
- 第12回 統計的検定と仮説の検証
- 第13回 分析結果の発表
- 第14回 発表へのコメント
- 第15回 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

科目名 クラス 講義区分	
社会調査B 04 <春>	
木 島 由 昌	2単位

【講義概要】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

【学習目標】

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 第1回 社会調査の企画・設計
- 第2回 社会調査の実施方法
- 第3回 問題意識の絞り込み
- 第4回 仮説の検討
- 第5回 質問文の作成
- 第6回 調査票の完成
- 第7回 サンプリングの方法
- 第8回 調査の実施手順
- 第9回 調査票の配布と回収
- 第10回 調査データの整理
- 第11回 データ集計の基礎
- 第12回 統計的検定と仮説の検証
- 第13回 分析結果の発表
- 第14回 発表へのコメント
- 第15回 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と筆記試験の結果を総合して評価する。詳細については初回の授業で説明する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

科目名 クラス 講義区分	
社会調査実習Ⅱ 01 <秋集>	
過 放	4単位

【講義概要】

この科目は、「社会調査実習Ⅰ」の単位取得者を対象に、そこで提出された調査計画書に基づいて、実際にデータを収集・分析することを課題とし、社会調査に関する深い知識と技法の習得についてのものである。

【学習目標】

調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っただきたい。問題構成や仮説を検証する手続きが妥当であること、SPSSおよびエクセルを使いこなせること、分析結果の解釈が妥当であることなどが評価の重要なポイントである。

なお、8000字以上の調査報告レポートが、単位認定のために必須なものとなる。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【講義計画】

- 第1回
1. 調査のテーマ/領域： 1994年度より実施している「大学生の生活と意識」調査を継続して実施する。
 2. 調査の内容/概要： 調査票調査によって、主として大学生の「国際化に関する意識」と「人間関係の実態把握」等を計量的に分析する。
 3. 調査の範囲/対象： 本学学生が主要な対象となるが、比較のために他大学の学生、あるいは学生の家族なども対象に加えることも検討している。
 4. 主な調査項目： 国際化に関する意識、海外体験、家族関係、友人関係等
 5. データ収集（現地調査）の方法： 調査票の郵送調査か、場合によって授業時間を利用した集合調査によってデータを収集する。
 6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 実査は10月後半ないし11月初旬を目途におこなう。
 7. 調査における学生のかかわり/役割： 主役である。主体的に調査設計・データ収集・分析にかかわることが重要である。
 8. その他の特記事項： 本学では、参加学生が主体的に調査に取り組むことで、問題設定から報告書作成までの一連のプロセスをすべて学習させることを目指している。そのため、参加学生によっては、若干上記のテーマと異なる場合があることなどもご了解願いたい。

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、報告書の論文（400字詰め20枚程度以上）によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

科目名 クラス 講義区分	
社会調査実習Ⅱ 02 <秋集>	
阪 口 祐 介	4 単位

【講義概要】

この科目は、「社会調査実習Ⅰ」の単位取得者を対象に、そこで提出された調査計画書に基づいて、実際にデータを収集・分析することを課題とし、社会調査に関する深い知識と技法の習得についてのものである。

【学習目標】

調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っていたらきたい。問題構成や仮説を検証する手続きが妥当であること、SPSSおよびエクセルを使いこなせること、分析結果の解釈が妥当であることなどが評価の重要なポイントである。

なお、8000字以上の調査報告レポートが、単位認定のために必須なものとなる。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【講義計画】

- 第1回 1. 調査のテーマ/領域： 1994年度より実施している「大学生の生活と意識」調査を継続して実施する。
 2. 調査の内容/概要： 調査票調査によって、主として大学生の「国際化に関する意識」と「人間関係の実態把握」等を計量的に分析する。
 3. 調査の範囲/対象： 本学学生が主要な対象となるが、比較のために他大学の学生、あるいは学生の家族なども対象に加えることも検討している。
 4. 主な調査項目： 国際化に関する意識、海外体験、家族関係、友人関係等
 5. データ収集（現地調査）の方法： 調査票の郵送調査か、場合によって授業時間を利用した集合調査によってデータを収集する。
 6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 実査は10月後半ないし11月初旬を目途におこなう。
 7. 調査における学生のかかわり/役割： 主役である。主体的に調査設計・データ収集・分析にかかわることが重要である。
 8. その他の特記事項： 本学では、参加学生が主体的に調査に取り組むことで、問題設定から報告書作成までの一連のプロセスをすべて学習させることを目指している。そのため、参加学生によっては、若干上記のテーマと異なる場合があることなどもご了解願いたい。

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、報告書の論文（400字詰め20枚程度以上）によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ[第2版]』ミネルヴァ書房

科目名 クラス 講義区分		
社会調査特講－質的調査法 <春>		
過	放	2 単位

【講義概要】

今年度の講義では、質的調査法の種類と実例、特に聞き取り調査の技法、参与観察法とドキュメント分析法を中心にして、それぞれの技法の特徴や調査実施上の倫理など、基礎的知識について学ぶ。

【学習目標】

調査の企画、調査技法の選定と調査項目の設定、調査の実施、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノートの書き方、報告書の作成など調査方法について具体的に学ぶとともに体験実習を通して理解を深める。

この授業は、「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭に行う。なお授業では、受講生個人を単位に、あるいは小グループを編成して、調査の実施とそのデータ分析に取り込む方法をとる。したがって授業への出席のみならず、授業時間外にも調査作業や、グループの連携性・協調性が不可欠の必要条件である。

【講義計画】

- 第1回 質的調査法に関する概説
 第2回 聞き取り調査とその特徴
 第3回 聞き取り調査の技法
 第4回 聞き取り調査のデータ分析
 第5回 インタビュー法
 第6回 ライフヒストリーの分析
 第7回 フィールドワークの技法
 第8回 参与観察法とは
 第9回 参与観察法の進め方
 第10回 参与観察法のデータ収集と分析
 第11回 さまざまなドキュメント分析
 第12回 ドキュメント分析の調査企画
 第13回 ドキュメント分析の技法
 第14回 ドキュメント分析のデータ収集と分析
 第15回 事例研究

【成績評価の方法】

出席状況・授業時の態度及びレポートの結果を総合して評価する。詳細については最初の授業の際に説明する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会調査特講－統計解析法 01 <春>	
阪口 祐介	2単位

【講義概要】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識について説明する。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

【学習目標】

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を越えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、社会調査士資格の取得を目指している者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピュータも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【講義計画】

- | | | |
|------|----|----------------------------------|
| 第1回 | 1 | 基本統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値） |
| 第2回 | 2 | 確率論基礎①（確率の発想と二項分布） |
| 第3回 | 3 | 確率論基礎②（正規分布と中心極限定理） |
| 第4回 | 4 | 統計的推定とサンプリング理論 |
| 第5回 | 5 | 統計的検定の理論（比率の差の検定） |
| 第6回 | 6 | 量的変数と質的変数（分析手法の概観） |
| 第7回 | 7 | 質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定） |
| 第8回 | 8 | 質的変数と量的変数との関連②（分散分析、F検定） |
| 第9回 | 9 | 質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数） |
| 第10回 | 10 | 質的変数と質的変数との関連②（独立性の χ^2 検定） |
| 第11回 | 11 | 質的変数と質的変数との関連③（第3変数の導入、エラボレーション） |
| 第12回 | 12 | 量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎） |
| 第13回 | 13 | 量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数） |
| 第14回 | 14 | 量的変数と量的変数との関連③（第3変数の導入、偏相関係数） |
| 第15回 | 15 | 多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎） |

【成績評価の方法】

試験 90% 出席 10%
最終試験のほか、出席点および数回行なう予定の小テストの得点も加味する。詳細は、最初の講義にて説明する。

【教科書】

特に指定しないが、参考文献のうち2冊以上を読了しておくことが望ましい。

【参考文献】

P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
得津一郎『はじめての統計』有斐閣ブックス
芝村良『R.A.フィッシャー統計理論』九州大学出版会
原純輔・海野道郎『社会調査演習（第2版）』東京大学出版会
ジョエル・ベスト（林訳）『統計はこうしてウソをつく だまされないための統計学入門』白揚社

科目名 クラス 講義区分	
社会調査特講－統計解析法 02 <秋>	
木下 栄二	2単位

【講義概要】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識について説明する。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

【学習目標】

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を越えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、社会調査士資格の取得を目指している者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピュータも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【講義計画】

- | | | |
|------|----|----------------------------------|
| 第1回 | 1 | 基本統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値） |
| 第2回 | 2 | 確率論基礎①（確率の発想と二項分布） |
| 第3回 | 3 | 確率論基礎②（正規分布と中心極限定理） |
| 第4回 | 4 | 統計的推定とサンプリング理論 |
| 第5回 | 5 | 統計的検定の理論（比率の差の検定） |
| 第6回 | 6 | 量的変数と質的変数（分析手法の概観） |
| 第7回 | 7 | 質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定） |
| 第8回 | 8 | 質的変数と量的変数との関連②（分散分析、F検定） |
| 第9回 | 9 | 質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数） |
| 第10回 | 10 | 質的変数と質的変数との関連②（独立性の χ^2 検定） |
| 第11回 | 11 | 質的変数と質的変数との関連③（第3変数の導入、エラボレーション） |
| 第12回 | 12 | 量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎） |
| 第13回 | 13 | 量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数） |
| 第14回 | 14 | 量的変数と量的変数との関連③（第3変数の導入、偏相関係数） |
| 第15回 | 15 | 多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎） |

【成績評価の方法】

試験 90% 出席 10%
最終試験のほか、出席点および数回行なう予定の小テストの得点も加味する。詳細は、最初の講義にて説明する。

【教科書】

特に指定しないが、参考文献のうち2冊以上を読了しておくことが望ましい。

【参考文献】

P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
得津一郎『はじめての統計』有斐閣ブックス
芝村良『R.A.フィッシャー統計理論』九州大学出版会
原純輔・海野道郎『社会調査演習（第2版）』東京大学出版会
ジョエル・ベスト（林訳）『統計はこうしてウソをつく だまされないための統計学入門』白揚社

科目名 クラス 講義区分	
社会病理学 <通期>	
島 中 宗 一	4単位

【講義概要】

社会病理現象を臨床社会学の視点から概説する。現代社会は、毎日のようにさまざまな事件が報道される。それぞれの事件は、その背景を読み解いていくと、社会システムと家族システム、あるいは社会システムと個人システム、さらには個人システムとそのサブシステムの交差領域で、せめぎ合う関係が生じ、そのせめぎ合う関係に適切に対応できないことが、社会病理現象として顕現している。これらの関係を臨床社会学の視点から理解を深める。

【学習目標】

社会病理学を臨床社会学として展開する。臨床社会学は、社会病理学が固有に内在させてきた問題意識を、介入プロセスを視野に入れた社会学の行為として特化させた領域である。社会病理現象を臨床社会学的アプローチによって問題解決を志向する方法を学習する。

臨床社会学の特徴の第一は、介入プロセスの採用にある。第二は、生物学的・心理学的・社会的アプローチの相互作用である。第三は、ミクロ・メゾ・マクロ水準の相互作用である。第二と第三の相互作用のなかで、病理現象の全体像を析出し、問題解決のための見取り図を描き、実際の介入によって、問題を解決していく営為が、臨床社会学の方法である。本講義では、ミクロ・メゾ水準の社会病理現象を素材に取上げ、臨床社会学的アプローチの実際を学習する。

【講義計画】

- 第1回 社会病理学への臨床社会学の貢献
- 第2回 富裕化社会の社会病理現象
- 第3回 臨床社会学の歴史
- 第4回 臨床社会学の方法
- 第5回 摂食障害(1)
- 第6回 摂食障害(2)
- 第7回 アルコール問題(1)
- 第8回 アルコール問題(2)
- 第9回 子ども虐待(1)
- 第10回 子ども虐待(2)
- 第11回 老人虐待
- 第12回 犯罪
- 第13回 臨床社会学とフィールド
- 第14回 専門性の問題
- 第15回 隣接科学と臨床社会学
- 第16回 富裕化社会の諸特徴(1)
- 第17回 富裕化社会の諸特徴(2)
- 第18回 富裕化社会の諸命題(1)
- 第19回 富裕化社会の諸命題(2)
- 第20回 富裕化社会と対人関係(1)
- 第21回 富裕化社会と対人関係(2)
- 第22回 対人関係という現象(1)
- 第23回 対人関係という現象(2)
- 第24回 対人関係という現象(3)
- 第25回 富裕化社会と対人関係 (IPR) トレーニング(1)
- 第26回 富裕化社会と対人関係 (IPR) トレーニング(2)
- 第27回 対人援助職と対人関係 (IPR) トレーニング(1)
- 第28回 対人援助職と対人関係 (IPR) トレーニング(2)
- 第29回 自己への関心から他者に対する誠実な関心へ(1)
- 第30回 自己への関心から他者に対する誠実な関心へ(2)

【成績評価の方法】

レポート 80% 出席 20%
レポート

【教科書】

島中宗一・清水新二・広瀬卓爾編 社会病理学講座第4巻 社会病理学と臨床社会学 学文社
前期使用
島中宗一 富裕化社会と対人関係 至文堂
後期使用

【参考文献】

島中宗一『家族支援論』世界思想社
島中宗一『情緒的自立の社会学』世界思想社

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習 A 01 <秋集>	
丸 山 裕 子	4単位

【講義概要】

実習前の社会福祉援助技術演習Aでは、これまで学習した講義などとの関連から、より具体的、実際の場面を想定して、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助(支援)活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシュミレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワークで学んだ内容を、ソーシャルワーク実習を視野にいれ、より具体的、実際の場面を想定して自らの中で統合し、考察を深めることができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション(社会福祉援助技術演習Aの目的と方法)
- 第2回 ソーシャルワーク実践における技術とは
- 第3回 援助的な関係とは(I)
- 第4回 援助的な関係とは(II)
- 第5回 コミュニケーション・マナー(I)
- 第6回 コミュニケーション・マナー(II)
- 第7回 援助の基本的技法としての面接(I)
- 第8回 援助の基本的技法としての面接(II)
- 第9回 援助の基本的技法としての面接(III)
- 第10回 援助の基本的技法としての面接(IV)
- 第11回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する(I)
- 第12回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する(II)
- 第13回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する(III)
- 第14回 あなたならどうする?(I)
- 第15回 あなたならどうする?(II)
- 第16回 事例研究法と事例
- 第17回 ソーシャルワーク実践における価値と倫理
- 第18回 記録について(I)
- 第19回 記録について(II)
- 第20回 記録について(III)
- 第21回 事例研究 (I)
- 第22回 "
- 第23回 事例研究 (II)
- 第24回 "
- 第25回 体験的ケーススタディ(I)
- 第26回 "
- 第27回 体験的ケーススタディ(II)
- 第28回 "
- 第29回 まとめと自己評価
- 第30回 "

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【教科書】

必要に応じて、担当者が作成したプリントを配布する

【参考文献】

適宜、紹介する

【備考】

<02~05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習 A 02 <秋集>	
安原 佳子	4単位

【講義概要】

実習前の社会福祉援助技術演習Aでは、これまで学習した講義などとの関連から、より具体的、実際の場面を想定して、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシュミレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワークで学んだ内容を、ソーシャルワーク実習を視野にいれ、より具体的、実際の場面を想定して自らの中で統合し、考察を深めることができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Aの目的と方法）
- 第2回 ソーシャルワーク実践における技術とは
- 第3回 援助的な関係とは（I）
- 第4回 援助的な関係とは（II） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第5回 コミュニケーション・マナー（I）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第6回 コミュニケーション・マナー（II）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第7回 援助の基本的技法としての面接（I） ビジュアル教材使用（面接の実際）
- 第8回 援助の基本的技法としての面接（II） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第9回 援助の基本的技法としての面接（III） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第10回 援助の基本的技法としての面接（IV） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第11回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（I） ジェノグラムと年表（ライフイベント含）作成
- 第12回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（II） エゴグラムの活用
- 第13回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（III）（I）（II）と家族・友人などからの聞き取りをプラスした「私」に関するレポート作成
- 第14回 あなたならどうする？（I） インシデント場面を用いた事例検討
- 第15回 あなたならどうする？（II） インシデント場面を用いた事例検討
- 第16回 事例研究法と事例
- 第17回 ソーシャルワーク実践における価値と倫理 事例を用いたグループディスカッション
- 第18回 記録について（I） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第19回 記録について（II） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第20回 記録について（III） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第21回 事例研究（I） 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第22回 " 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第23回 事例研究（II）① 支援計画と実施のためのアセスメント グループディスカッションと報告
- 第24回 " ② プランニング グループディスカッションと報告

第25回 体験的ケーススタディ（I） 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第26回 " 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第27回 体験的ケーススタディ（II） 事例研究（ディベート）+ロールプレイ

第28回 "

第29回 まとめと自己評価

第30回 "

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【教科書】

授業時に提示する

【参考文献】

授業時に提示する

【備考】

<02~05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習A 03 <秋集>	
新 崎 国 広	4単位

【講義概要】

実習前の社会福祉援助技術演習Aでは、これまで学習した講義などとの関連から、より具体的、実際の場面を想定して、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシュミレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワークで学んだ内容を、ソーシャルワーク実習を視野にいれ、より具体的、実際の場面を想定して自らの中で統合し、考察を深めることができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Aの目的と方法）
- 第2回 ソーシャルワーク実践における技術とは
- 第3回 援助的な関係とは（Ⅰ）
- 第4回 援助的な関係とは（Ⅱ） ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第5回 コミュニケーション・マナー（Ⅰ）ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第6回 コミュニケーション・マナー（Ⅱ）ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第7回 援助の基本的技法としての面接（Ⅰ） ビジュアル教材使用（面接の実際）
- 第8回 援助の基本的技法としての面接（Ⅱ） ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第9回 援助の基本的技法としての面接（Ⅲ） ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第10回 援助の基本的技法としての面接（Ⅳ） ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第11回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅰ） ジェノグラムと年表（ライフイベント含）作成
- 第12回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅱ） エゴグラムの活用
- 第13回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅲ）（Ⅰ）（Ⅱ）と家族・友人などからの聞き取りをプラスした「私」に関するレポート作成
- 第14回 あなたならどうする？（Ⅰ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第15回 あなたならどうする？（Ⅱ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第16回 事例研究法と事例
- 第17回 ソーシャルワーク実践における価値と倫理 事例を用いたグループディスカッション
- 第18回 記録について（Ⅰ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第19回 記録について（Ⅱ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第20回 記録について（Ⅲ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第21回 事例研究（Ⅰ） 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第22回 # 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第23回 事例研究（Ⅱ）① 支援計画と実施のためのアセスメント グループディスカッションと報告
- 第24回 # ② プランニング グループディスカッションと報告

第25回 体験的ケーススタディ（Ⅰ） 事例研究（グループディスカッション）＋ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第26回 # 事例研究（グループディスカッション）＋ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第27回 体験的ケーススタディ（Ⅱ） 事例研究（ディベート）＋ロールプレイ

第28回 #

第29回 まとめと自己評価

第30回 #

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【備考】

<02～05生>は読替一覧参照の事。

さ
行

科目名	クラス	講義区分
社会福祉援助技術演習A 04 <秋集>		
大垣 芳美	4単位	

【講義概要】

実習前の社会福祉援助技術演習Aでは、これまで学習した講義などとの関連から、より具体的、実際の場面を想定して、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシミュレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワークで学んだ内容を、ソーシャルワーク実習を視野にいれ、より具体的、実際の場面を想定して自らの中で統合し、考察を深めることができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Aの目的と方法）
- 第2回 ソーシャルワーク実践における技術とは
- 第3回 援助的な関係とは（Ⅰ）
- 第4回 援助的な関係とは（Ⅱ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第5回 コミュニケーション・マナー（Ⅰ）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第6回 コミュニケーション・マナー（Ⅱ）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第7回 援助の基本的技法としての面接（Ⅰ） ビジュアル教材使用（面接の実際）
- 第8回 援助の基本的技法としての面接（Ⅱ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第9回 援助の基本的技法としての面接（Ⅲ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第10回 援助の基本的技法としての面接（Ⅳ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第11回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅰ） ジェノグラムと年表（ライフイベント含）作成
- 第12回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅱ） エゴグラムの活用
- 第13回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅲ）（Ⅰ）（Ⅱ）と家族・友人などからの聞き取りをプラスした「私」に関するレポート作成
- 第14回 あなたならどうする？（Ⅰ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第15回 あなたならどうする？（Ⅱ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第16回 事例研究法と事例
- 第17回 ソーシャルワーク実践における価値と倫理 事例を用いたグループディスカッション
- 第18回 記録について（Ⅰ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第19回 記録について（Ⅱ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第20回 記録について（Ⅲ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第21回 事例研究（Ⅰ） 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第22回 " 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第23回 事例研究（Ⅱ）① 支援計画と実施のためのアセスメント グループディスカッションと報告
- 第24回 " ② プランニング グループディスカッションと報告

第25回 体験的ケーススタディ（Ⅰ） 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワークング・社会資源の活用について検討する

第26回 " 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワークング・社会資源の活用について検討する

第27回 体験的ケーススタディ（Ⅱ） 事例研究（ディベート）+ロールプレイ

第28回 "

第29回 まとめと自己評価

第30回 "

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【備考】

<02~05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習A 05 <秋集>	
大 西 雅 裕	4 単 位

【講義概要】

実習前の社会福祉援助技術演習Aでは、これまで学習した講義などとの関連から、より具体的、実際の場面を想定して、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統一的に養うことを目的とする。実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシミュレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワークで学んだ内容を、ソーシャルワーク実習を視野にいれ、より具体的、実際の場面を想定して自らの中で統合し、考察を深めることができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Aの目的と方法）
- 第2回 ソーシャルワーク実践における技術とは
- 第3回 援助的な関係とは（Ⅰ）
- 第4回 援助的な関係とは（Ⅱ） ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第5回 コミュニケーション・マナー（Ⅰ）ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第6回 コミュニケーション・マナー（Ⅱ）ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第7回 援助の基本的技法としての面接（Ⅰ） ビジュアル教材使用（面接の実際）
- 第8回 援助の基本的技法としての面接（Ⅱ） ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第9回 援助の基本的技法としての面接（Ⅲ） ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第10回 援助の基本的技法としての面接（Ⅳ） ロールプレイ＋学生相互のフィードバックなど
- 第11回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅰ） ジェノグラムと年表（ライフイベント含）作成
- 第12回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅱ） エゴグラムの活用
- 第13回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅲ）（Ⅰ）（Ⅱ）と家族・友人などからの聞き取りをプラスした「私」に関するレポート作成
- 第14回 あなたならどうする？（Ⅰ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第15回 あなたならどうする？（Ⅱ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第16回 事例研究法と事例
- 第17回 ソーシャルワーク実践における価値と倫理 事例を用いたグループディスカッション
- 第18回 記録について（Ⅰ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第19回 記録について（Ⅱ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第20回 記録について（Ⅲ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第21回 事例研究（Ⅰ） 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第22回 " 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第23回 事例研究（Ⅱ）① 支援計画と実施のためのアセスメント グループディスカッションと報告
- 第24回 " ② プランニング グループディスカッションと報告

第25回 体験的ケーススタディ（Ⅰ） 事例研究（グループディスカッション）＋ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第26回 " 事例研究（グループディスカッション）＋ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第27回 体験的ケーススタディ（Ⅱ） 事例研究（ディベート）＋ロールプレイ

第28回 "

第29回 まとめと自己評価

第30回 "

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【教科書】

テキストなし 授業ごとに資料を作成配布する。

【備考】

<02～05生>は読替一覧参照の事。

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習A 06<秋集>	
金澤 ますみ	4単位

【講義概要】

実習前の社会福祉援助技術演習Aでは、これまで学習した講義などとの関連から、より具体的、実際の場面を想定して、社会福祉専門職として実践に必要なとされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。実践活動に必要なさまざまな知識や技術をシュミレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワークで学んだ内容を、ソーシャルワーク実習を視野にいれ、より具体的、実際の場面を想定して自らの中で統合し、考察を深めることができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Aの目的と方法）
- 第2回 ソーシャルワーク実践における技術とは
- 第3回 援助的な関係とは（I）
- 第4回 援助的な関係とは（II） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第5回 コミュニケーション・マナー（I）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第6回 コミュニケーション・マナー（II）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第7回 援助の基本的技法としての面接（I） ビジュアル教材使用（面接の実際）
- 第8回 援助の基本的技法としての面接（II） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第9回 援助の基本的技法としての面接（III） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第10回 援助の基本的技法としての面接（IV） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第11回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（I） ジェノグラムと年表（ライフイベント含）作成
- 第12回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（II） エゴグラムの活用
- 第13回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（III）（I）（II）と家族・友人などからの聞き取りをプラスした「私」に関するレポート作成
- 第14回 あなたならどうする？（I） インシデント場面を用いた事例検討
- 第15回 あなたならどうする？（II） インシデント場面を用いた事例検討
- 第16回 事例研究法と事例
- 第17回 ソーシャルワーク実践における価値と倫理 事例を用いたグループディスカッション
- 第18回 記録について（I） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第19回 記録について（II） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第20回 記録について（III） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第21回 事例研究（I） 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第22回 // 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第23回 事例研究（II）① 支援計画と実施のためのアセスメント グループディスカッションと報告
- 第24回 // ② プランニング グループディスカッションと報告

第25回 体験的ケーススタディ（I） 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第26回 // 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第27回 体験的ケーススタディ（II） 事例研究（ディベート）+ロールプレイ

第28回 //

第29回 まとめと自己評価

第30回 //

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

【備考】

<02～05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分

社会福祉援助技術演習A 07<秋集>

川 東 光 子

4単位

【講義概要】

実習前の社会福祉援助技術演習Aでは、これまで学習した講義などとの関連から、より具体的、実際の場面を想定して、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。実践活動に必要とされるさまざまな知識や技術をシュミレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワークで学んだ内容を、ソーシャルワーク実習を視野にいれ、より具体的、実際の場面を想定して自らの中で統合し、考察を深めることができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Aの目的と方法）
- 第2回 ソーシャルワーク実践における技術とは
- 第3回 援助的な関係とは（Ⅰ）
- 第4回 援助的な関係とは（Ⅱ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第5回 コミュニケーション・マナー（Ⅰ）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第6回 コミュニケーション・マナー（Ⅱ）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第7回 援助の基本的技法としての面接（Ⅰ） ビジュアル教材使用（面接の実際）
- 第8回 援助の基本的技法としての面接（Ⅱ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第9回 援助の基本的技法としての面接（Ⅲ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第10回 援助の基本的技法としての面接（Ⅳ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第11回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅰ） ジェノグラムと年表（ライフイベント含）作成
- 第12回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅱ） エゴグラムの活用
- 第13回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅲ）（Ⅰ）（Ⅱ）と家族・友人などからの聞き取りをプラスした「私」に関するレポート作成
- 第14回 あなたならどうする？（Ⅰ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第15回 あなたならどうする？（Ⅱ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第16回 事例研究法と事例
- 第17回 ソーシャルワーク実践における価値と倫理 事例を用いたグループディスカッション
- 第18回 記録について（Ⅰ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第19回 記録について（Ⅱ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第20回 記録について（Ⅲ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第21回 事例研究（Ⅰ） 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第22回 " 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第23回 事例研究（Ⅱ）① 支援計画と実施のためのアセスメント グループディスカッションと報告
- 第24回 " ② プランニング グループディスカッションと報告

第25回 体験的ケーススタディ（Ⅰ） 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第26回 " 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第27回 体験的ケーススタディ（Ⅱ） 事例研究（ディベート）+ロールプレイ

第28回 "

第29回 まとめと自己評価

第30回 "

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【備考】

<02~05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習 A 08 <秋集>	
武田 祐子	4単位

【講義概要】

実習前の社会福祉援助技術演習Aでは、これまで学習した講義などとの関連から、より具体的、実際の場面を想定して、社会福祉専門職として実践に必要なとされる援助（支援）活動のための基本的態度・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。実践活動に必要なさまざまな知識や技術をシミュレーション学習を通して、総合的に学習する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワークで学んだ内容を、ソーシャルワーク実習を視野にいれ、より具体的、実際の場面を想定して自らの中で統合し、考察を深めることができる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Aの目的と方法）
- 第2回 ソーシャルワーク実践における技術とは
- 第3回 援助的な関係とは（Ⅰ）
- 第4回 援助的な関係とは（Ⅱ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第5回 コミュニケーション・マナー（Ⅰ）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第6回 コミュニケーション・マナー（Ⅱ）ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第7回 援助の基本的技法としての面接（Ⅰ） ビジュアル教材使用（面接の実際）
- 第8回 援助の基本的技法としての面接（Ⅱ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第9回 援助の基本的技法としての面接（Ⅲ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第10回 援助の基本的技法としての面接（Ⅳ） ロールプレイ+学生相互のフィードバックなど
- 第11回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅰ） ジェノグラムと年表（ライフイベント含）作成
- 第12回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅱ） エゴグラムの活用
- 第13回 社会福祉専門職をめざす自分を理解する（Ⅲ）（Ⅰ）（Ⅱ）と家族・友人などからの聞き取りをプラスした「私」に関するレポート作成
- 第14回 あなたならどうする？（Ⅰ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第15回 あなたならどうする？（Ⅱ） インシデント場面を用いた事例検討
- 第16回 事例研究法と事例
- 第17回 ソーシャルワーク実践における価値と倫理 事例を用いたグループディスカッション
- 第18回 記録について（Ⅰ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第19回 記録について（Ⅱ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第20回 記録について（Ⅲ） VTRなどを用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を記録
- 第21回 事例研究（Ⅰ） 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第22回 " 事例を用いて、問題理解から解決にいたる援助や支援の過程（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結とアフターケア）を考察 グループディスカッションと報告
- 第23回 事例研究（Ⅱ）① 支援計画と実施のためのアセスメント グループディスカッションと報告
- 第24回 " ② プランニング グループディスカッションと報告

第25回 体験的ケーススタディ（Ⅰ） 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第26回 " 事例研究（グループディスカッション）+ロールプレイ 障害者施設建設における住民の反対運動に関する事例を用いてアウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・社会資源の活用について検討する

第27回 体験的ケーススタディ（Ⅱ） 事例研究（ディベート）+ロールプレイ

第28回 "
 第29回 まとめと自己評価
 第30回 "

【成績評価の方法】

出席・授業の参加態度と課題の提出状況を総合して評価する

【備考】

<02～05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分

社会福祉援助技術演習B 01 <春集>

黒田 隆之

4単位

【講義概要】

実習後の社会福祉援助技術演習Bでは、ソーシャルワーク実習での体験を振り返り、これまで学習した講義や演習などと関連させ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・知識・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

実習を通しての事例を取り上げ、援助プロセスに沿って課題を整理、分析することを通じて、相談援助にかかる知識や技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう集団指導または個別指導する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワーク・社会福祉援助技術演習Aで学んだ内容を、実習体験を振り返ることによって、自らの中で統合し考察を深め、実践的な知識と技術を習得できる。

【講義計画】

第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Bの目的と方法）

第2回 実習を振り返り、実習からの事例を各自まとめる

第3回 実習事例を発表

第4回 //

第5回 事例研究の題材として、事例を選択し、課題を明確にし、まとめなおす グループディスカッション

第6回 //

第7回 事例研究1 相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）に沿って検討する
また、事例によって、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関して検討する

地域福祉の実習事例については、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価を中心に検討する

1事例につき4コマ 4～5人のグループに分け、事例の発表・グループディスカッション・報告（またはロールプレイによる発表）・全体での振り返り

第8回 //

第9回 //

第10回 //

第11回 // 2

第12回 //

第13回 //

第14回 //

第15回 // 3

第16回 //

第17回 //

第18回 //

第19回 // 4

第20回 //

第21回 //

第22回 //

第23回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導

第24回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導

第25回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導

第26回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導

第27回 自己覚知① グループワーク及び個別指導

第28回 自己覚知② グループワーク及び個別指導

第29回 まとめ

第30回 まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加状況、(出席率・とりくみの姿勢等)、レポート等の提出物により総合的に評価する。

(試験やレポートの評価基準など)

【教科書】

授業時にお伝えします。

【参考文献】

授業時にお伝えします。

【備考】

<02～05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習 B 02 <春集>	
新 崎 国 広	4 単位
【講義概要】	
実習後の社会福祉援助技術演習 B では、ソーシャルワーク実習での体験を振り返り、これまで学習した講義や演習などと関連させ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・知識・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。	
実習を通しての事例を取り上げ、援助プロセスに沿って課題を整理、分析することを通じて、相談援助にかかる知識や技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう集団指導または個別指導する。	
【学習目標】	
他の講義や社会福祉フィールドワーク・社会福祉援助技術演習 A で学んだ内容を、実習体験を振り返ることによって、自らの中で統合し考察を深め、実践的な知識と技術を習得できる。	
【講義計画】	
第 1 回	オリエンテーション（社会福祉援助技術演習 B の目的と方法）
第 2 回	実習を振り返り、実習からの事例を各自まとめる
第 3 回	実習事例を発表
第 4 回	〃
第 5 回	事例研究の題材として、事例を選択し、課題を明確にし、まとめなおす グループディスカッション
第 6 回	〃
第 7 回	事例研究 1 相談援助の過程（インターク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）に沿って検討する また、事例によって、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関して検討する 地域福祉の実習事例については、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価を中心に検討する 1 事例につき 4 コマ 4～5 人のグループに分け、事例の発表・グループディスカッション・報告（またはロールプレイによる発表）・全体での振り返り
第 8 回	〃
第 9 回	〃
第 10 回	〃
第 11 回	〃 2
第 12 回	〃
第 13 回	〃
第 14 回	〃
第 15 回	〃 3
第 16 回	〃
第 17 回	〃
第 18 回	〃
第 19 回	〃 4
第 20 回	〃
第 21 回	〃
第 22 回	〃
第 23 回	基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
第 24 回	基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
第 25 回	基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
第 26 回	基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
第 27 回	自己覚知① グループワーク及び個別指導
第 28 回	自己覚知② グループワーク及び個別指導
第 29 回	まとめ
第 30 回	まとめ
【成績評価の方法】	
授業への参加状況、（出席率・とりくみの姿勢等）、レポート等の提出物により総合的に評価する。 （試験やレポートの評価基準など）	
【備考】	
<02～05生>は読替一覧参照の事。	

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習 B 03 <春集>	
大 垣 芳 美	4 単位
【講義概要】	
実習後の社会福祉援助技術演習 B では、ソーシャルワーク実習での体験を振り返り、これまで学習した講義や演習などと関連させ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・知識・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。	
実習を通しての事例を取り上げ、援助プロセスに沿って課題を整理、分析することを通じて、相談援助にかかる知識や技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう集団指導または個別指導する。	
【学習目標】	
他の講義や社会福祉フィールドワーク・社会福祉援助技術演習 A で学んだ内容を、実習体験を振り返ることによって、自らの中で統合し考察を深め、実践的な知識と技術を習得できる。	
【講義計画】	
第 1 回	オリエンテーション（社会福祉援助技術演習 B の目的と方法）
第 2 回	実習を振り返り、実習からの事例を各自まとめる
第 3 回	実習事例を発表
第 4 回	〃
第 5 回	事例研究の題材として、事例を選択し、課題を明確にし、まとめなおす グループディスカッション
第 6 回	〃
第 7 回	事例研究 1 相談援助の過程（インターク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）に沿って検討する また、事例によって、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関して検討する 地域福祉の実習事例については、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価を中心に検討する 1 事例につき 4 コマ 4～5 人のグループに分け、事例の発表・グループディスカッション・報告（またはロールプレイによる発表）・全体での振り返り
第 8 回	〃
第 9 回	〃
第 10 回	〃
第 11 回	〃 2
第 12 回	〃
第 13 回	〃
第 14 回	〃
第 15 回	〃 3
第 16 回	〃
第 17 回	〃
第 18 回	〃
第 19 回	〃 4
第 20 回	〃
第 21 回	〃
第 22 回	〃
第 23 回	基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
第 24 回	基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
第 25 回	基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
第 26 回	基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
第 27 回	自己覚知① グループワーク及び個別指導
第 28 回	自己覚知② グループワーク及び個別指導
第 29 回	まとめ
第 30 回	まとめ
【成績評価の方法】	
授業への参加状況、（出席率・とりくみの姿勢等）、レポート等の提出物により総合的に評価する。 （試験やレポートの評価基準など）	
【備考】	
<02～05生>は読替一覧参照の事。	

科目名 クラス 講義区分

社会福祉援助技術演習B 04 <春集>

大 西 雅 裕

4 単位

【講義概要】

実習後の社会福祉援助技術演習Bでは、ソーシャルワーク実習での体験を振り返り、これまで学習した講義や演習などと関連させ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・知識・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

実習を通しての事例を取り上げ、援助プロセスに沿って課題を整理、分析することを通じて、相談援助にかかる知識や技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう集団指導または個別指導する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワーク・社会福祉援助技術演習Aで学んだ内容を、実習体験を振り返ることによって、自らの中で統合し考察を深め、実践的な知識と技術を習得できる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Bの目的と方法）
- 第2回 実習を振り返り、実習からの事例を各自まとめる
- 第3回 実習事例を発表
- 第4回 //
- 第5回 事例研究の題材として、事例を選択し、課題を明確にし、まとめたおす グループディスカッション
- 第6回 //
- 第7回 事例研究1 相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）に沿って検討する
また、事例によって、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関して検討する
地域福祉の実習事例については、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価を中心に検討する
1事例につき4コマ 4～5人のグループに分け、事例の発表・グループディスカッション・報告（またはロールプレイによる発表）・全体での振り返り
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 // 2
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 // 3
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 // 4
- 第20回 //
- 第21回 //
- 第22回 //
- 第23回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第24回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第25回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第26回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第27回 自己覚知① グループワーク及び個別指導
- 第28回 自己覚知② グループワーク及び個別指導
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加状況、（出席率・とりくみの姿勢等）、レポート等の提出物により総合的に評価する。

（試験やレポートの評価基準など）

【教科書】

対人援助実践研究会HEART編 77のワークで学ぶ「対人援助ワークブック」久美出版

【備考】

<02～05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習B 05 <春集>	
金澤 ますみ	4単位

【講義概要】

実習後の社会福祉援助技術演習Bでは、ソーシャルワーク実習での体験を振り返り、これまで学習した講義や演習などに関連させ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・知識・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

実習を通しての事例を取り上げ、援助プロセスに沿って課題を整理、分析することを通じて、相談援助にかかる知識や技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう集団指導または個別指導する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワーク・社会福祉援助技術演習Aで学んだ内容を、実習体験を振り返ることによって、自らの中で統合し考察を深め、実践的な知識と技術を習得できる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Bの目的と方法）
- 第2回 実習を振り返り、実習からの事例を各自まとめる
- 第3回 実習事例を発表
- 第4回 〃
- 第5回 事例研究の題材として、事例を選択し、課題を明確にし、まとめなおす グループディスカッション
- 第6回 〃
- 第7回 事例研究1 相談援助の過程（インターク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）に沿って検討する
また、事例によって、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関して検討する
地域福祉の実習事例については、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価を中心に検討する
1事例につき4コマ 4～5人のグループに分け、事例の発表・グループディスカッション・報告（またはロールプレイによる発表）・全体での振り返り
- 第8回 〃
- 第9回 〃
- 第10回 〃
- 第11回 〃 2
- 第12回 〃
- 第13回 〃
- 第14回 〃
- 第15回 〃 3
- 第16回 〃
- 第17回 〃
- 第18回 〃
- 第19回 〃 4
- 第20回 〃
- 第21回 〃
- 第22回 〃
- 第23回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第24回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第25回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第26回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第27回 自己覚知① グループワーク及び個別指導
- 第28回 自己覚知② グループワーク及び個別指導
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加状況、(出席率・とりくみの姿勢等)、レポート等の提出物により総合的に評価する。
(試験やレポートの評価基準など)

【参考文献】

授業時に適宜紹介する。

【備考】

<02～05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習 B 06 <春集>	
川 東 光 子	4 単位

【講義概要】

実習後の社会福祉援助技術演習 B では、ソーシャルワーク実習での体験を振り返り、これまで学習した講義や演習などと関連させ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・知識・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

実習を通しての事例を取り上げ、援助プロセスに沿って課題を整理、分析することを通じて、相談援助にかかる知識や技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう集団指導または個別指導する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワーク・社会福祉援助技術演習 A で学んだ内容を、実習体験を振り返ることによって、自らの中で統合し考察を深め、実践的な知識と技術を習得できる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習 B の目的と方法）
- 第2回 実習を振り返り、実習からの事例を各自まとめる
- 第3回 実習事例を発表
- 第4回 //
- 第5回 事例研究の題材として、事例を選択し、課題を明確にし、まとめなおす グループディスカッション
- 第6回 //
- 第7回 事例研究1 相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）に沿って検討する
また、事例によって、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関して検討する
地域福祉の実習事例については、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価を中心に検討する
1 事例につき4コマ 4～5人のグループに分け、事例の発表・グループディスカッション・報告（またはロールプレイによる発表）・全体での振り返り
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 // 2
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 // 3
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 // 4
- 第20回 //
- 第21回 //
- 第22回 //
- 第23回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第24回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第25回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第26回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第27回 自己覚知① グループワーク及び個別指導
- 第28回 自己覚知② グループワーク及び個別指導
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加状況、（出席率・とりくみの姿勢等）、レポート等の提出物により総合的に評価する。

（試験やレポートの評価基準など）

【備考】

<02～05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習 B 07 <春集>	
武 田 祐 子	4 単位

【講義概要】

実習後の社会福祉援助技術演習 B では、ソーシャルワーク実習での体験を振り返り、これまで学習した講義や演習などと関連させ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・知識・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

実習を通しての事例を取り上げ、援助プロセスに沿って課題を整理、分析することを通じて、相談援助にかかる知識や技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう集団指導または個別指導する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワーク・社会福祉援助技術演習 A で学んだ内容を、実習体験を振り返ることによって、自らの中で統合し考察を深め、実践的な知識と技術を習得できる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習 B の目的と方法）
- 第2回 実習を振り返り、実習からの事例を各自まとめる
- 第3回 実習事例を発表
- 第4回 //
- 第5回 事例研究の題材として、事例を選択し、課題を明確にし、まとめなおす グループディスカッション
- 第6回 //
- 第7回 事例研究1 相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）に沿って検討する
また、事例によって、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関して検討する
地域福祉の実習事例については、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価を中心に検討する
1 事例につき4コマ 4～5人のグループに分け、事例の発表・グループディスカッション・報告（またはロールプレイによる発表）・全体での振り返り
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 // 2
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 // 3
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 // 4
- 第20回 //
- 第21回 //
- 第22回 //
- 第23回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第24回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第25回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第26回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第27回 自己覚知① グループワーク及び個別指導
- 第28回 自己覚知② グループワーク及び個別指導
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加状況、（出席率・とりくみの姿勢等）、レポート等の提出物により総合的に評価する。

（試験やレポートの評価基準など）

【備考】

<02～05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術演習B 08 <春集>	
塩田 祥子	4単位

【講義概要】

実習後の社会福祉援助技術演習Bでは、ソーシャルワーク実習での体験を振り返り、これまで学習した講義や演習などと関連させ、社会福祉専門職として実践に必要とされる援助（支援）活動のための基本的態度・知識・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。

実習を通しての事例を取り上げ、援助プロセスに沿って課題を整理、分析することを通じて、相談援助にかかる知識や技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう集団指導または個別指導する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワーク・社会福祉援助技術演習Aで学んだ内容を、実習体験を振り返ることによって、自らの中で統合し考察を深め、実践的な知識と技術を習得できる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Bの目的と方法）
- 第2回 実習を振り返り、実習からの事例を各自まとめる
- 第3回 実習事例を発表
- 第4回 //
- 第5回 事例研究の題材として、事例を選択し、課題を明確にし、まとめなおす グループディスカッション
- 第6回 //
- 第7回 事例研究1 相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）に沿って検討する
また、事例によって、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関して検討する
地域福祉の実習事例については、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価を中心に検討する
1事例につき4コマ 4～5人のグループに分け、事例の発表・グループディスカッション・報告（またはロールプレイによる発表）・全体での振り返り
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 // 2
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 // 3
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 // 4
- 第20回 //
- 第21回 //
- 第22回 //
- 第23回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第24回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第25回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
- 第26回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
- 第27回 自己覚知① グループワーク及び個別指導
- 第28回 自己覚知② グループワーク及び個別指導
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加状況、（出席率・とりくみの姿勢等）、レポート等の提出物により総合的に評価する。

（試験やレポートの評価基準など）

【教科書】

授業時に提示。

【参考文献】

授業時にその都度提示。

【備考】

出席については厳しくチェックしていきます。
毎回出席した上で、主体的に参加することがのぞまれます。

その上で、“みんなで考える”演習をめざします。

<02～05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分		
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ		
塩田祥子 高山英治 森田久 藤田靖 安原佳 阪野子 長谷弘 岡井治 丸山裕子	01<通期> 02<通期> 03<通期> 04<通期> 05<通期> 06<通期> 07<通期> 08<通期> 09<通期>	2 単位

【学習目標】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する“相談援助業務”に必要な資質・能力技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 第1回 1 配属実習オリエンテーション
2 専門援助技術実技指導
3 面接実技指導
4 記録実技指導
5 評価・効果測定実技指導
6 配属実習
7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
8 レポートに基づく個別指導
9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【教科書】

授業時指定する。

【参考文献】

授業時指定する。

科目名 クラス 講義区分		
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ		
塩田祥子 川井加 黒井隆 安福佳 福原公 佐田紀 岡端美 郭井淳 理恵	01<通期> 02<通期> 03<通期> 04<通期> 05<通期> 06<通期> 07<通期> 08<通期> 09<通期>	2 単位

【講義概要】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する「相談援助業務」に必要な資質・能力技術を習得する。

【学習目標】

- 1 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 2 具体的な体験や援助活動を、専門援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 3 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 第1回 配属実習オリエンテーション
第2回 専門援助技術実技指導
第3回 面接実技指導
第4回 記録実技指導
第5回 評価・効果測定実技指導
第6回 配属実習
第7回 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
第8回 レポートに基づく個別指導
第9回 全体総括会

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 50% 出席 50%

【備考】

成績評価にあたっては、全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告会・総括会、実習先評価を評価の対象とする。

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉援助技術論Ⅱ <通期>	
石田 易 司	8単位

【講義概要】

社会福祉士の役割と意義について、具体的な援助の方法を学ぶことにより、その知識、技術、価値を習得する。
特に「社会福祉援助技術論Ⅱ」ではグループワークを中心に学ぶ。

【学習目標】

- 1, 個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術について、最新の情報を入れながら具体的方法論を学ぶ。
- 2, 社会福祉調査法、社会福祉計画、社会福祉運営管理、社会活動法、ケアマネジメント、スーパービジョン等の技術論、方法論について詳しく学習し、実践に役立つ知識、技術を身につける。
- 3, 具体的事例を多くこなすことにより、実践感覚を身につける。

【講義計画】

- 第1回 社会福祉援助技術の意義と機能 1
- 第2回 社会福祉援助技術の意義と機能 2
- 第3回 社会福祉援助技術の実践領域と適応領域 1
- 第4回 社会福祉援助技術の実践領域と適応領域 2
- 第5回 個別援助技術の展開過程 1
- 第6回 個別援助技術の展開過程 2
- 第7回 集団援助技術の展開過程 1
- 第8回 集団援助技術の展開過程 2
- 第9回 地域援助技術の援助原則と具体的展開 1
- 第10回 地域援助技術の援助原則と具体的展開 2
- 第11回 社会福祉調査法の理論と技術 1
- 第12回 社会福祉調査法の理論と技術 2
- 第13回 社会福祉計画の理論と技術 1
- 第14回 社会福祉計画の理論と技術 2
- 第16回 社会福祉の運営管理 1
- 第17回 社会福祉の運営管理 2
- 第18回 社会活動法の理論と技術 1
- 第19回 社会活動法の理論と技術 2
- 第20回 ケアマネジメントの目的と概念 1
- 第21回 ケアマネジメントの目的と概念 2
- 第22回 ケアマネジメントの構成要素と過程 1
- 第23回 ケアマネジメントの構成要素と過程 2
- 第24回 ケアマネジャーの問題とその解決
- 第25回 スーパービジョン 1
- 第26回 スーパービジョン 2
- 第27回 効果測定と評価 1
- 第28回 効果測定と評価 2
- 第29回 全体のまとめと社会福祉士の倫理

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 80% 出席 20%
レポートには期末のレポートと、日常の授業中に指示するレポートがあります。毎回の出欠とあわせて採点します。

【教科書】

石田易司 体験するグループワーク「ラーニングバイドウィング」エルビス社

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉行財政論 <秋>	
柴田 幹 男	2単位

【講義概要】

- 1 社会福祉行財政の基本的な仕組み、歴史の変遷、今日的課題等に関する概要
- 2 講師が体験した具体例を踏まえた地方自治体における社会福祉行財政の現状と課題
- 3 社会福祉の主要な分野における諸制度の現状と課題や持続可能性等

【学習目標】

- 1 行財政制度や主要な分野における社会福祉制度の概要や問題点、今後の課題等に関する知識の習得
- 2 様々なテーマに関してその問題点や課題等に関して自ら考察し集約する力と態度の涵養

【講義計画】

- 第1回 本講義の方法や目的等に関する全体的なオリエンテーションや社会福祉行財政の基本的な仕組み、今日的な課題等
- 第2回 介護保険制度及び地方自治行政の現状と課題
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 障害者自立支援制度及び行財政システムの現状と課題
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 生活保護制度の現状と課題。わが国の財政状況の概要と問題点等
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 医療制度の現状と課題
- 第12回 同上
- 第13回 年金制度の現状と課題
- 第14回 同上
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

【教科書】

プリントを配付する

科目名	クラス	講義区分
社会福祉計画論 <通期>		
岡田忠克	4単位	

【講義概要】

社会福祉計画論Aでは、社会福祉の実施体制における福祉行財政と福祉計画を取りあげる。まず、福祉行財政については、国・都道府県・市町村のそれぞれの役割や国と地方の関係を概観した上で、福祉行政の機関（福祉事務所・児童相談所・身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所）の役割をみていく。次に、福祉計画については、各分野ごとや地域福祉計画といった各種の福祉計画の意義と目的を概説した上で、福祉計画の主体と方法およびそれらの実際をみていく。とりわけ、住民参加の意義と留意点を説明する。

【学習目標】

- 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
- 福祉行財政の実施体制（国と地方自治体の役割、関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。
 - 福祉行財政の実際について理解する。
 - 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 福祉行政の歴史① 福祉国家の形成
- 第3回 福祉行政の歴史② 行政国家の形成
- 第4回 福祉行政の歴史③ 福祉国家の見直しと日本型福祉社会
- 第5回 福祉行政の実施体制Ⅰ 国と都道府県の役割
- 第6回 福祉行政の実施体制Ⅱ 市町村の役割と国と地方の関係①
- 第7回 福祉行政の実施体制Ⅲ 市町村の役割と国と地方の関係②
- 第8回 福祉行政の実施体制Ⅳ 福祉の財源 国レベル
- 第9回 福祉行政の実施体制Ⅴ 福祉の財源 地方レベル
- 第10回 福祉行政の実施体制Ⅵ 福祉行政の組織及び団体の役割 官と民の関係①
- 第11回 福祉行政の実施体制Ⅶ 福祉行政の組織及び団体の役割 官と民の関係②
- 第12回 福祉行政の実施体制Ⅷ 福祉行政における専門職の役割①
- 第13回 福祉行政の実施体制Ⅷ 福祉行政における専門職の役割②
- 第14回 福祉行財政の動向 データでみる福祉行財政の実際
- 第15回 福祉行政の実施体制ーまとめ
- 第16回 福祉計画と公共哲学①
- 第17回 福祉計画と公共哲学②
- 第18回 福祉計画と公共哲学③
- 第19回 福祉計画の意義と目的Ⅰ ・ 福祉計画の概要
- 第20回 福祉計画の意義と目的Ⅱ ・ 福祉計画における住民参加の意義
- 第21回 福祉計画の意義と目的Ⅲ ・ 福祉行財政と福祉計画の関係
- 第22回 福祉計画の主体と方法Ⅰ ・ 福祉計画の主体と種類
- 第23回 福祉計画の主体と方法Ⅱ ・ 福祉計画の策定過程
- 第24回 福祉計画の主体と方法Ⅲ ・ 福祉計画の策定方法と留意点
- 第25回 福祉計画の主体と方法Ⅳ ・ 福祉計画の評価方法
- 第26回 福祉計画の実際① ・ 福祉計画の種類ごとの実際
- 第27回 福祉計画の実際②
- 第28回 福祉計画の実際③
- 第29回 福祉計画の実際④
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 70% 出席 30%

【教科書】

テキストは使用せず、プリントを配布する。

科目名	クラス	講義区分
社会福祉原論A <春>		
岡田忠克	2単位	

【講義概要】

現代社会において社会福祉制度は国民生活と切り離せないものになっている。本講義では、制度を成り立たせている社会福祉の概念・価値・背景について講義を進めていく。とりわけ福祉理論、歴史的背景に重点を置き、福祉専門職として求められている援助観の形成のための枠組みを考えていきたい。

【学習目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会福祉の基礎概念①
- 第3回 社会福祉の基礎概念②
- 第4回 社会福祉の基礎概念③
- 第5回 社会福祉援助の価値と倫理
- 第6回 社会福祉の歴史①
- 第7回 社会福祉の歴史②
- 第8回 社会福祉の歴史③
- 第9回 社会福祉の対象 ニーズとは何か
- 第10回 社会福祉援助の方法①ー原理と価値 直接援助と間接援助
- 第11回 社会福祉援助の方法②
- 第12回 社会福祉援助の方法③
- 第13回 社会福祉援助の方法④
- 第14回 社会福祉援助の方法⑤
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

【教科書】

山縣文治・岡田忠克 よくわかる社会福祉 [第7版] ミネルヴァ書房
3月発刊予定

【備考】

<02~08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉原論 B <秋>	
岡田 忠 克	2 単位

【講義概要】

現代社会において社会福祉制度は国民生活と切り離せないものになっている。本講義では、福祉専門職者の成立基盤となっている理論と制度について考えていく。また、諸外国の事例や福祉実践の実施体制についても整理しながら福祉専門職として求められている援助観の形成のための枠組みを考えていきたい。

【学習目標】

- 1 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
- 2 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。
- 3 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
- 4 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会福祉の専門性① 社会福祉のマンパワー
- 第3回 社会福祉の専門性② 専門性と専門職
- 第4回 社会福祉の専門性③ 保健・医療・福祉のネットワーク
- 第5回 社会福祉の専門性④ 社会福祉士を取りまく現状と課題
- 第6回 社会福祉の実施体制① 社会福祉六法と関連制度
- 第7回 社会福祉の実施体制② 国・地方の行政と組織
- 第8回 社会福祉の実施体制③ 国・地方の財政の仕組み
- 第9回 社会福祉の実施体制④ 措置制度とは何か
- 第10回 社会福祉の実施体制⑤ 地方分権と社会福祉
- 第11回 諸外国の社会福祉① イギリス
- 第12回 諸外国の社会福祉② アメリカ
- 第13回 諸外国の社会福祉③ ドイツ
- 第14回 諸外国の社会福祉④ スウェーデン
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

【教科書】

山縣文治・岡田忠克 よくわかる社会福祉 [第7版] ミネルヴァ書房
3月発刊予定

【備考】

<02~08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉施設サービス論 <秋集>	
松 端 克 文	4 単位

【講義概要】

【講義内容・学習目標】

本講は社会福祉施設での支援論あるいはサービス論である。今日、日本の社会福祉従事者は150万人を超えているが、その7割以上が社会福祉施設の職員である。本学の卒業生の就職先も大半が社会福祉施設である。

日本では、今日でも社会福祉施設が重要な位置を占めているにもかかわらず、社会福祉施設の職員が（大学で学んだ知識や技術を活かして）ソーシャルワークの実践をしていくという観点から整理され、体系化された理論や方法はほとんどない。また、地域福祉の重要性が指摘されているにもかかわらず、社会福祉施設と地域福祉との関係が積極的に論じられることもほとんどない状況である。そこで本講では、介護保険法改正や障害者自立支援法の内容を分析した上で、ソーシャルワーク実践の場としてのこれからの社会福祉施設での支援・サービスの方向を地域福祉の観点もふまえて明らかにしていく。

【講義計画】

- 第1回 1. 社会福祉施設の概要—歴史、制度体系と種別、利用者数など—
2. 社会福祉施設サービス・運営の仕組みと課題
3. ノーマライゼーションの思想と脱施設化
4. 介護保険制度改正と社会福祉施設
5. 障害者自立支援法と社会福祉施設
6. 社会福祉施設と地域福祉
7. 社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践
8. ケアプラン、個別支援計画の考え方と書き方
9. 社会福祉施設のサービス評価、苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動
10. 事例検討

【成績評価の方法】

出席と試験で総合に評価する。

【教科書】

松端克文『障害者の個別支援計画の考え方・書き方』日総研

【参考文献】

講義中に紹介する

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉特講－就労支援サービス・更生保護制度 <8月集中>	
藤本了勝 乾伊津子	2単位

【講義概要】

就労支援サービス：
相談援助において必要となる各種の就労支援制度について理解する
就労支援に係る組織・団体及び専門職について理解する
就労支援分野との連携について理解する
更生保護制度：
相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する
更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する
刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携のあり方について理解する

【学習目標】

新しく社会福祉士試験の科目となる二つの科目について、内容をよく理解し、将来の進路としても意識できるよう学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 雇用・就労の動向と労働施策の概要
- 第2回 就労支援制度の概要①
- 第3回 就労支援制度の概要②
- 第4回 就労支援に係る組織・団体の役割と実際①
- 第5回 就労支援に係る組織・団体の役割と実際②
- 第6回 就労支援に係る専門職の役割と実際
- 第7回 就労支援分野との連携と実際とミニテスト
- 第8回 更生保護制度の概要①
- 第9回 更生保護制度の概要②
- 第10回 更生保護制度の担い手
- 第11回 更生保護制度における関係機関・団体との連携①
- 第12回 更生保護制度における関係機関・団体との連携②
- 第13回 医療観察制度の概要
- 第14回 更生保護における近年の動向と課題とミニテスト

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%

【教科書】

特に使用しない。講師が資料を用意する

【参考文献】

就労支援サービス
更生保護制度（いずれも中央法規、新社会福祉士養成講座）

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉特講－ソーシャルワーク[編入生用] <春>	
福田公教	2単位

【講義概要】

社会福祉特講－ソーシャルワークでは、これまで学んできたソーシャルワークの知識をもとに、対人援助とコミュニケーションについて学ぶ。援助者がクライアントとうまく関わる能力は、対人援助に関わる多くの知識だけでは身につかない。対人援助とコミュニケーションについて、受け身的に学ぶのではなく、体験を通して自らが主体的に学び、対人関係の感性を磨くような参加型の講義を展開する。

【学習目標】

- ・これまで学んできたソーシャルワークの知識を再確認する。
- ・参加型の講義を通して、対人関係の感性を磨く。
- ・編入生向けの講義であるため、編入生間のコミュニケーションが相補的なものになる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 対人援助について
- 第3回 コミュニケーション効果
- 第4回 非言語的コミュニケーション
- 第5回 受容
- 第6回 共感
- 第7回 コミュニケーション技法①
- 第8回 コミュニケーション技法②
- 第9回 コミュニケーション技法③
- 第10回 リーダーシップ
- 第11回 指示と助言と支持
- 第12回 人間関係
- 第13回 自己開示
- 第14回 フィードバック
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 20% 出席 30%

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉特講-マスコミから見た福祉課題 <秋>	
伊藤 高章	2単位

【講義概要】

読売新聞社による寄付講座。
読売新聞大阪本社もしくは東京本社の現役ジャーナリストによるリレー講義。
現代日本の福祉課題に関する分析と解説。
本年度の講義内容及び担当者は調整中。

下記は昨年度計画。(参考までに記載)

【学習目標】

日本の福祉課題を、現実の社会問題を通して学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 原 昌平：大阪本社科学部次長
「ホームレス」
- 第2回 山畑洋二：大阪本社生活情報部主任
「NPOとボランティア」
- 第3回 小牧規子：大阪本社編集委員
「男女共同参画の視点で福祉を考える」
- 第4回 猪熊律子：東京本社社会保障部次長
「日本と欧州の社会保障制度」
- 第5回 前野一雄：東京本社医療情報部長
「医療・健康メディアの役割」
- 第6回 原 昌平：大阪本社科学部次長
「日本の医療が抱える課題」
- 第7回 小畑洋一：東京社会保障部長
「人口減・超高齢社会の課題」
- 第8回 中舘聡子：大阪本社生活情報部
「介護職の今」
- 第9回 山岸徹也：大阪本社社会部次長
「貧困について」
- 第10回 前野一雄：東京本社医療情報部長
「医療サービスの今後」
- 第11回 森 克二：大阪本社社会部長
「司法の現場から見た福祉課題」
- 第12回 原 昌平：大阪本社科学部次長
「日本の精神医療・福祉」
- 第13回 小牧規子：大阪本社編集委員
「少子化と子育て支援」
- 第14回 小牧規子：編集委員
「総括」

【成績評価の方法】

試験 100%
毎授業でのコメントシートの提出。
欠席5回で受験資格なし。
期間内試験。

【参考文献】

毎日の新聞に目を通す習慣をつけること。

【備考】

<02~08生>の【SS生】は読替一覧参照の事。
インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉発達史〔2〕 <秋>	
木村 和世	2単位

【講義概要】

明治後期の恤救規則から現代の福祉までを対象とする。福祉史を身近なものとして把握するために、南河内地方の農村や新聞記者の目を通した大阪の町の変遷や路地裏に生きる人々の生活をみていく。戦時下ではいかに人々が戦争に組み込まれていったかを福祉の視点からみていく。

【学習目標】

福祉史は単に過去の出来事を勉強するだけでなく、現在を見る眼を養っていくことでもある。とくに格差社会と呼ばれる現代に生きるあなたがたから、明治、大正、昭和を生きた人々はどう映るのか、福祉というものはどういうものなのか、原点はどこにあったのか、ということなどに留意して学習してもらいたい。

【講義計画】

- 第1回 明治期の恤救規則
南河内の村々と貧困の実相
- 第2回 資本主義の成立と社会問題の発生
底辺の人々と救済事業
- 第3回 資本主義の展開と労働争議の頻発
- 第4回 ロシア革命と日本への波及
キリスト教社会主義の人々
- 第5回 大正期一都市リベラリズムの光と影
- 第6回 大阪の近代と新聞社による社会事業
社会連帯主義と本山彦一
- 第7回 賀川豊彦と大阪毎日新聞記者・村嶋歸之
- 第8回 米騒動と方面委員制度
- 第9回 社会事業から厚生事業へ
救護法の成立
関東大震災と労働運動の分裂
- 第10回 厚生省の発足
国民健康保険の創設
- 第11回 1945年の大阪
戦後の混乱と人々の生活
- 第12回 戦後の社会福祉の展開
- 第13回 高度経済成長期の福祉
- 第14回 今後への展望

【成績評価の方法】

レポート 40% 出席 30%
レポートについては講義時に指示する
このほか、平常点として30%を入れる。このなかには提出物・小テストも含まれる

【教科書】

木村 和世『路地裏の社会史』昭和堂
・プリントを必要に応じて配布する

【参考文献】

- ・芝村篤樹『都市の近代・大阪の20世紀』
- ・藤原彰 栗屋憲太郎 吉田裕／編『昭和20年 1945年』
- ・杉原薫 玉井金五／編『大正／大阪／スラム』

科目名 クラス 講義区分		
社会福祉フィールドワーク		
竹内靖子 小柳敬明	01<通期> 02<通期>	4単位

【講義概要】

「社会福祉」というものを理解するために、現場と教室を往復しながら、必要な体験と理論や技術を学習します。

社会福祉は純粋な理論だけの学問でなく、現場で、対象者や働く人から学ぶことがたくさんあります。そうした社会福祉の特性をできるだけ早く理解できるように、この授業があります。

2年生や3年生にある【ソーシャルワーク演習】や【ソーシャルワーク実習】と連動した、大切な科目です。

【学習目標】

社会福祉の基本である施設などの現場に向いて、活動場所を理解し、対象者を理解し、活動内容を理解するために、1ヶ月に一度程度、ボランティアな活動をします。

毎回の授業は、必要な対象者や活動の理解のための講義を聞きま

す。

【講義計画】

- 第1回 授業の概要と評価
- 第2回 活動ガイダンス(1)
- 第3回 活動ガイダンス(2)
- 第4回 対象者、活動場所の理解(1)高齢者の理解
- 第5回 対象者、活動場所の理解(2)障害者の理解
- 第6回 対象者、活動場所の理解(3)児童の理解
- 第7回 活動のマナーとルール
- 第8回 ソーシャルワーカーの倫理(個人情報と守秘義務)
- 第9回 観察と記録
- 第10回 活動の振り返り(1)
- 第11回 活動の振り返り(2)
- 第12回 活動の振り返り(3)
- 第13回 活動の振り返り(4)
- 第14回 個人の問題とその対処
- 第15回 夏休み中の活動の報告(グループでの話し合い)
- 第16回 夏休み中の活動の報告(全体での報告)
- 第17回 活動の技術(1)コミュニケーション
- 第18回 活動の技術(2)レクリエーション
- 第19回 活動の技術(3)救急法
- 第20回 受け入れ先の意見
- 第21回 プレゼンテーションの方法(1)
- 第22回 プレゼンテーションの方法(2)
- 第23回 活動の振り返り(5)
- 第24回 活動の振り返り(6)
- 第25回 活動の振り返り(7)
- 第26回 活動の振り返り(8)
- 第27回 全体報告会準備
- 第28回 全体報告会

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

出席数、提出物、活動記録を総合的に評価します

【備考】

<08~09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉法 <春集>	
瀧澤仁唱	4単位

【講義概要】

1. 我が国における社会福祉行政の歴史的展開
2. 社会福祉法制の概要
 - 1) 福祉六法を中軸とする社会福祉法制の概要
 - 2) 社会福祉法を中軸とする社会福祉の法的基盤(民生委員法、日本赤十字法、社会福祉・医療事業団法を含む)
 - 3) 関連法の概要(介護保険法、売春防止法、災害救助法、戦傷病者特別援護法等)
 - 4) 社会福祉計画(老人保健福祉計画、障害者計画、児童健全育成計画、地域福祉計画)
 - 5) 地方自治体の独自事業
3. 社会福祉の実施体制(国と地方の役割、行政機関と関係機関、措置制度)
4. 社会福祉の財政と費用負担
5. 社会福祉における公私の役割分担と連携のあり方

【学習目標】

1. 社会福祉の法体系及び関係法の概要を理解させる。
2. 社会福祉の実施体制の概要を理解させる。
3. 社会福祉の財政の構造及び社会福祉における費用徴収制度を理解させる。
4. 我が国における公私の役割を理解させる。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
講義の目的
①制度を知る ②概念をきちんとおさえる ③社会科学
的なものの見方を養う ④社会福祉主事任用資格認定
科目について ⑤試験準備
(授業進度および学生の希望により講義順序および内容が
変わる場合があります)
- 第2回 社会福祉の意義 社会福祉は多義的な概念
- 第3回 社会福祉関係法の発生 社会保障の歴史
- 第4回 憲法と社会福祉関係法 市民法の3原則と憲法
- 第5回 社会保障法の中の社会福祉関係法の位置 社会保障は、社
会保険、国家扶助(公的扶助)、公衆衛生・医療、社会福
祉の四部門
- 第6回 社会福祉法(1) 社会福祉法の編成
- 第7回 社会福祉法(2) 社会福祉事業
- 第8回 社会福祉法(3) 福祉に関する事務所、社会福祉主事
- 第9回 社会福祉法(4) 社会福祉法人の管理、社会福祉法人の解
散及び合併
- 第10回 社会福祉法(5) 社会福祉事業、福祉サービスの適切な利
用
- 第11回 社会福祉法(6) 人材確保、地域福祉
- 第12回 障害者福祉法(1) 障害者基本法の障害者、障害者自立支
援法の障害者
- 第13回 障害者福祉法(2) 障害者自立支援法の目的、各障害者福
祉法
- 第14回 障害者福祉法(3) 障害者自立支援法
- 第15回 障害者福祉法(4) 障害者自立支援法
- 第16回 障害者福祉法(5) 障害者自立支援法、身体障害者福祉法
- 第17回 障害者福祉法(6) 身体障害者福祉法、知的障害者福祉
法
- 第18回 障害者福祉法(7) 知的障害者福祉法、精神保健及び精
神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)
- 第19回 障害者福祉法(8) 精神保健福祉法
- 第20回 老人福祉関係法(1) 老人(高齢者)とは何か
- 第21回 老人福祉関係法(2) 介護保険法
- 第22回 老人福祉関係法(3) 介護保険法
- 第23回 老人福祉関係法(4) 介護保険法
- 第24回 児童および母子福祉関係法(1) 児童および母子福祉関係
法を学ぶ際の要点
- 第25回 児童および母子福祉関係法(2) 児童福祉法
- 第26回 児童および母子福祉関係法(3) 児童福祉法
- 第27回 児童および母子福祉関係法(4) 単親家庭福祉関係法制
- 第28回 児童および母子福祉関係法(5) 単親家庭福祉関係法制
- 第29回 児童および母子福祉関係法(6) 単親家庭福祉関係法制
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
論述式筆記試験

【教科書】

法改正が多いため、改訂版がでる可能性があるのですが、授業開始時に指示します。

【参考文献】

より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法（2009年版）又は『社会福祉六法2009（平成21）年版』（新日本法規）

必要に応じ一部条文はコピーしてわたしますので、購入する必要はありません。古い六法は使えませんので、ご注意ください。

【講義概要】

少子化の進行と社会保障との関係は？年金問題や医療費増大などほぼ毎日のように社会保障に関する報道がされているが、多くの人は問題の所在を捉えきれていない。制度内容を理解しきれていないからである。本講では社会保障の思想と現代社会における社会保障の理念、社会保障と社会福祉の意義の相違及び社会保障の各制度の概要について講義する。

【講義計画】

- 第1回 1 現代社会と社会保障
- 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
- 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 介護保険
 - 4) 労災保険
 - 5) 雇用保険
 - 6) 家族手当（児童手当）
 - 7) 公的扶助
 - 8) その他関連制度
- 4 日本の年金保険制度とその具体的内容
- 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
- 5 日本の医療保険制度とその具体的内容
- 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 6 公的施策と民間保険
- 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 7 社会保障の実施体制及び専門職

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
論述式を中心とした試験による素点評価（定期末試験を予定）。

【教科書】

福祉士養成講座編集委員会 新版社会福祉士養成講座「社会保障論」
中央法規
椋野美智子・田中耕太郎 はじめての社会保障 有斐閣アルマ

【参考文献】

「社会保障年鑑2008年版」を勧めるが、それ以外にも講義の中で適宜紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
宗教社会学 <通期>	
清水 夏樹	4単位

【講義概要】

日本および西洋の宗教史をたどりながら、近・現代社会に占めるそのウェイトと機能を考える。明治以降の新宗教活動の一端をみ、戦後社会の病理もしくは“影の部分”を理解する手がかりとしたい。宗教にまつわる問題は、ある意味で社会学の窮極の課題（テーマ）とさえいえる面をもつ。E・デュルケイム、M・ウェーバー等先人の業績をふまえ、また文化人類学、民俗学上の知識・事例研究にも触れながら、現実の「社会」と生身の「人間」との有機的な結びつきを問い直す姿勢を大切に講義をすすめたい。

【学習目標】

宗教は時として話題性、事件性に富むものを“提供”してくれる（オウム真理教の例）。諸君はそれら一過性の興味に終ることのない真摯な態度を以て臨んでほしい。本講義も宗教と社会との生きた関係に眼を向け、省察と理解への契機としたい。

附記（一）欠席は極力戒める。二回続けて休んだりすると内容と文脈の把握が難しくなり、試験時に大きく支障をきたす点よくよく注意のこと。

（二）この講義はあくまで宗教についての「社会学」研究が主旨であり（宗教そのものの研究や紹介に終始するものではないから）、受講に当たっては社会学の基本概念、キー・ポイントとなる用語や知識を予め了知すべき必要から、出来れば1・2回生の課程を終えての受講が望ましい。

【講義計画】

- 第1回 開講一概要の紹介、注意要項
- 第2回 宗教社会学の基本コンセプト。聖と俗ほか
- 第3回 同、世俗化。アノミーと宗教現象
- 第4回 同、世俗化とその逆反。demonization、反世俗化
- 第5回 E・デュルケイム—未開社会の宗教研究から
- 第6回 M・モース 贈与と返礼 交換儀礼と呪術
- 第7回 同一贈答、ほか原始習俗、日本古来の神前儀礼等比較視座
- 第8回 宗教組織、宗教運動—宗教の役割・機能。ウィルソン、ティリヒ、バーガー
- 第9回 M・エリアーデほか比較宗教学、人類学、民俗学関連研究
- 第10回 同一シャーマンとカリスマの社会学（神の死と再生）
- 第11回 祭りの構造 ハレとケ 伝統信仰の習俗基盤 祖霊信仰
- 第12回 仏教受容と神仏習合Ⅰ 複合信仰の諸相と構成
- 第13回 日本近代化と宗教 社会発展と宗教の複層・背理関係
- 第14回 社会変動と宗教 アノミー：時代との共振関係
- 第15回 前期講述の整理—文献紹介を兼ねて
- 第16回 後期開始に当たって—文献の紹介と解題
- 第17回 世俗化とその逆説 demonizationの諸相
- 第18回 日本の新宗教Ⅰ 世直し型と霊術系 天理・金光・大本教
- 第19回 “ ”Ⅱ 大正・昭和・戦後期、日蓮系教団ほか
- 第20回 新宗教と民俗の古層 密教系 新々宗教とスピリチュアリズム
- 第21回 神仏習合Ⅱ—修験道儀礼とシンボルの動態構造
- 第22回 M・ウェーバーⅠ プロテスタント信仰と上昇期資本主義
- 第23回 同Ⅱ 世俗内禁欲（カルヴィニズム、予定説）
- 第24回 高度情報化と高度消費社会化—7・80年代 非合理の復権？
- 第25回 聖・俗・遊 価値フレーム 現代青年世代と宗教心理
- 第26回 上記三層フレーム・視座の移行 「聖」領域の「遊」化
- 第27回 インターネット空間と擬似宗教、神秘主義志向
- 第28回 〈見えない宗教〉T・ルックマン 宗教に代わるもの—代替機能への視点 R・ベラー 市民宗教など
- 第29回 〈分離と統合〉宗教をめぐる状況の再定義・再解釈
- 第30回 整序と総括—“宗教と社会”への動態射程
以上はあくまで講述上の進行手順であり、前後にわたって重複したり場合によっては順逆・異動をきたすことがある点をことわっておく

【成績評価の方法】

学年末テストを主体に評点する
上記試験以外に、そのつど簡易レポートを課し、総合評価に勘案・加味する。

【備考】

講義用の配布プリント稿とともに、随時、紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
生涯学習概論 01 <春>	
尾谷 雅彦	2単位

【講義概要】

現在、生涯学習という言葉が氾濫している。しかし、その定義は使う人の立場によって変化する。つまり、それほど内容が豊かなものである。本講義では、生涯学習の考え方を生涯学習の重要な支援領域である社会教育について講義する。特に実践面としての社会教育行政の基本事項とその実態、問題点をとりあげる。

【学習目標】

生涯学習を支援する社会教育の指導者としての専門職員として必要な、生涯学習の基礎的知識の所得と考え方を育む。

【講義計画】

- 第1回 生涯学習とは
- 第2回 生涯学習と社会教育
- 第3回 生涯学習、社会教育の施策
- 第4回 社会教育の意義と社会教育行政
- 第5回 社会教育の内容と方法①
- 第6回 社会教育の内容と方法②
- 第7回 社会教育の歴史
- 第8回 社会教育の指導者
- 第9回 社会教育の施設
- 第10回 学習情報の提供
- 第11回 学習相談の意義
- 第12回 昨今の社会教育行政の課題①
- 第13回 昨今の社会教育行政の課題②
- 第14回 昨今の社会教育行政の課題③
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
出席を重視。100点満点で配点は2/3以上の出席（確認の為の当日レポート提出）で50点、レポート50点。但し5回以上の欠席は0点とする。

【教科書】

特になし、講義中に適時プリントを配布する。

【参考文献】

- 『生涯学習概論』山本恒夫編著 東京書籍
- 『図書館員のための生涯学習概論』朝比奈大作 日本図書館協会
- 『学習プログラムの技法』岡本包治他 実務教育出版

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
生涯学習概論 02 <秋>	
尾 谷 雅 彦	2単位

【講義概要】

現在、生涯学習という言葉が氾濫している。しかし、その定義は使う人の立場によって変化する。つまり、それほど内容が豊かなものである。本講義では、生涯学習の考え方そして生涯学習の重要な支援領域である社会教育について講義する。特に実践面としての社会教育行政の基本事項とその実態、問題点をとりあげる。

【学習目標】

生涯学習を支援する社会教育の指導者としての専門職員として必要な、生涯学習の基礎的知識の所得と考え方を育む。

【講義計画】

- 第1回 生涯学習とは
- 第2回 生涯学習と社会教育
- 第3回 生涯学習、社会教育の施策
- 第4回 社会教育の意義と社会教育行政
- 第5回 社会教育の内容と方法①
- 第6回 社会教育の内容と方法②
- 第7回 社会教育の歴史
- 第8回 社会教育の指導者
- 第9回 社会教育の施設
- 第10回 学習情報の提供
- 第11回 学習相談の意義
- 第12回 昨今の社会教育行政の課題①
- 第13回 昨今の社会教育行政の課題②
- 第14回 昨今の社会教育行政の課題③
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
出席を重視。100点満点で配点は2/3以上の出席（確認の為の当日レポート提出）で50点、レポート50点。但し5回以上の欠席は0点とする。

【教科書】

特になし、講義中に適時プリントを配布する。

【参考文献】

- 『生涯学習概論』山本恒夫編著 東京書籍
- 『図書館員のための生涯学習概論』朝比奈大作 日本図書館協会
- 『学習プログラムの技法』岡本包治他 実務教育出版

科目名 クラス 講義区分	
障害者スポーツ論 <秋集>	
高 橋 明	4単位

【講義概要】

一般にスポーツは、形態、体力、年齢、性別、技術等の違いを、用具やルールを工夫して行われている。障害者のスポーツも、一見特殊に見えるスポーツであっても、障害という「ハンディ」を施設や用具、ルールを工夫すれば健常者と同じスポーツが可能であるという理念の基に、すべて「Adapted Sport＝適応性のスポーツ」であるということを知り、視聴覚教材（ビデオ）等も利用して、そうぞうりよく（想像力・創造力）を養えるような内容で、障害者に対する知識や理解、障害者のスポーツの果たす役割、意義や効果、歴史や現状、そして、指導法等について講義する。

【講義計画】

- 第1回 授業概要説明・ガイダンス 障害者のスポーツビデオ観賞
- 第2回 パラリンピックの映像を通して、障害を理解する
- 第3回 障害者と福祉・障害者の理解について
①障害者の現状
- 第4回 ②障害者とスポーツの捉え方
- 第5回 障害者と福祉・障害者の理解について
①障害者とリハビリテーションの定義
- 第6回 ②リハビリテーションにおけるスポーツ
- 第7回 障害者のスポーツ振興
①障害者のスポーツの現状
- 第8回 ②障害者のスポーツの意義、効果
- 第9回 障害者のスポーツの歴史と現状
- 第10回 ①医療スポーツとして
- 第11回 ②競技スポーツとして
- 第12回 ③国際大会の現状
- 第13回 障害者と生涯スポーツの現状
- 第14回 ①障害者のスポーツの動向
- 第15回 ②障害者と生涯スポーツの動向
- 第16回 ③障害者と生涯スポーツの課題
- 第17回 ④スポーツ指導者制度（障害者スポーツ指導者制度）
- 第18回 ⑤ボランティア活動
- 第19回 ⑥障害者とスポーツ競技会の企画運営
- 第20回 障害者のスポーツ指導と要点
①一般的なスポーツ指導 ②指導の要点
- 第21回 ③スポーツの概念 ④障害者に対するスポーツ指導の原則
- 第22回 障害者のスポーツ指導上の留意事項
①指導上の留意事項
- 第23回 障害者のスポーツ指導上の留意事項
②指導上の留意事項
- 第24回 障害別による運動処方と留意事項
①運動処方にあたっての留意事項
- 第25回 アダプテッド・スポーツの実技体験
（車椅子バスケットボール・ふうせんバレーボール・ボッチャほか）
- 第26回 アダプテッド・スポーツの実技体験
（車椅子バスケットボール・ふうせんバレーボール・ボッチャほか）
- 第27回 障害者スポーツに関するイベントへの参加
- 第28回 障害者スポーツセンターの見学等

【成績評価の方法】

出席重視（必ず出席を取ります。）出席率80%
テスト（授業内テスト）
レポート

【教科書】

高橋 明 障害者とスポーツ 岩波書店（岩波新書）
高橋 明 障害者とスポーツ 自主制作冊子
上記のテキスト2冊（1,200円程度）を使用します。購入方法は、授業の中で販売します。

【備考】

上記のテキスト2冊（1,200円程度）を使用します。購入方法は、授業の中で販売します。

科目名 クラス 講義区分	
障害者福祉論 A <春>	
黒田 隆之	2単位

【講義概要】

本講義では、学生の皆さんに、障害のある人が地域社会の中で生活するということが当たり前のことであるということを理解してもらい、そのためにはどのような支援が必要であるのかということを考えます。
本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目です。

【学習目標】

社会福祉士国家試験の問題を解くことができるようになる。

【講義計画】

- 第1回 障害者福祉の考え方(1)
- 第2回 障害者福祉の考え方(2)
- 第3回 障害の概念と障害者の実態(1)
- 第4回 障害の概念と障害者の実態(2)
- 第5回 障害者福祉の歴史的展開
- 第6回 障害者施策の体系(1)
- 第7回 障害者施策の体系(2)
- 第8回 障害者福祉のサービス体系(1)
- 第9回 障害者福祉のサービス体系(2)
- 第10回 障害者福祉のサービス体系(3)
- 第11回 障害者福祉の関連分野－教育・就労・雇用など(1)
- 第12回 障害者福祉の関連分野－教育・就労・雇用など(2)
- 第13回 障害者運動と当事者参加
- 第14回 障害者に対する相談援助活動

【成績評価の方法】

出席、レポート、テスト等により総合的に評価します。

【教科書】

新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 中央法規出版

【参考文献】

授業時にお伝えします。

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
障害者福祉論 B <秋>	
黒田 隆之	2単位

【講義概要】

本講義では、障害者福祉論Aで学んだことをふまえて、障害のある人の地域生活の課題と展望について学びます。
教科書の内容を学習するだけでなく、ビデオ教材を用いたり、障害のある人の話を聞いたりするなど、障害のある人がおかれている今の状況を理解できるようにします。
障害者福祉論Aの単位をすでに修得している人だけが、この科目を受講できます。

【学習目標】

障害者福祉の世界で起こっているさまざまなことについて、自分なりの意見を持ち、行動できるようになることが、目標です。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害の概念の整理(1)
- 第3回 障害の概念の整理(2)
- 第4回 障害の概念の整理(3)
- 第5回 障害者福祉の基本的理念(1)
- 第6回 障害者福祉の基本的理念(2)
- 第7回 障害者福祉の基本的理念(3)
- 第8回 障害者福祉の基本的理念(4)
- 第9回 障害のある人の地域生活の課題と展望(1)
- 第10回 障害のある人の地域生活の課題と展望(2)
- 第11回 障害のある人の地域生活の課題と展望(3)
- 第12回 障害のある人の地域生活の課題と展望(4)
- 第13回 障害者に対する相談援助活動(1)
- 第14回 障害者に対する相談援助活動(2)

【成績評価の方法】

出席、レポート、テスト等により総合的に評価します。

【教科書】

授業時にお伝えします。

【参考文献】

授業時にお伝えします。

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
上級英語Ⅰ <春集>	
Leon Bell	2単位

【講義概要】

This class comprises 3 modules each lasting 4 weeks.

The modules are

- 1) Roots of English
- 2) How to approach new English
- 3) Using English domestically and internationally

【学習目標】

In this course students will gain a greater appreciation for English. The aim is to learn about English, using English. By the end of the course students will be able to talk about some of the "whys" and "hows" of English.

【講義計画】

- 第1回 Orientation
- 第2回 Root languages 1
- 第3回 Basic comparative grammar.
- 第4回 Root languages 2
- 第5回 Web search, "Dictionary" construction
- 第6回 Root languages 3
- 第7回 "Dictionary" amalgamation.
- 第8回 Root languages 4
- 第9回 Basic history of English.
- 第10回 Root languages review.
- 第11回 Introduction to accents.
- 第12回 Root languages review.
- 第13回 Basic dialects, accent reinforcement.
- 第14回 Root languages review.
- 第16回 Semester 1 review.
- 第17回 How to approach new English.
- 第18回 Dialect review. Accent review.
- 第19回 Reading new English effectively.
- 第20回 Basic history of English review. Roots languages review.
- 第21回 International English- How do you approach it?
- 第22回 Basic comparative grammar review.
- 第23回 Japanese English.
- 第24回 How to approach new English and Root languages review.
- 第25回 ASEAN English
- 第26回 Reading new English effectively review.
- 第27回 World Englishes comparison.
- 第28回 ASEAN and Japanese Englishes.
- 第29回 Final Review class.

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

Students do 3 reports. Each weighted 20%.

Attendance is measured by how many times a student contributes actively to class. One contribution is equal to 1%. Therefore if a student contributed 6 times in a class they have accumulated 6% towards their attendance percentage.

【教科書】

No text needed.

【備考】

<08生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
上級英語Ⅱ <秋集>	
Myles Grogan	2単位

【講義概要】

This class consists of three projects, each lasting four weeks. The projects will be on the following topics:

1. Using computers
2. Why do people speak English?
3. Noble laureates: What do they offer you and me?

【学習目標】

The purpose of the class is to learn things in English, rather than to "learn" English. At the end of the course, using your English you will:

Have shown you can work at a basic level with an English computer interface

Be able to describe some factors contributing to the role of English on an international as well as a personal level (in written and spoken English)

Be able to talk about a specific Nobel laureate you admire, giving reasons for your choice (in written and spoken English)

【講義計画】

- 第1回 General introduction
- 第2回 Computer orientation
- 第3回 What is "open source"? (Input)
- 第4回 What is "open source"? (Output)
- 第5回 Alternative software - how useful is it really? (Input)
- 第6回 Alternative software - how useful is it really? (Output)
- 第7回 Graphic software (Input)
- 第8回 Graphic software (Output)
- 第9回 Round-up activities
- 第10回 Round-up (Student lead)
- 第11回 History of English (Input)
- 第12回 History of English (Output)
- 第13回 Famous English Speakers (Input)
- 第14回 Famous English Speakers (Output)
- 第15回 Future of English (Input)
- 第16回 Future of English (Output)
- 第17回 Round -up activities
- 第18回 Round -up (Student lead)
- 第19回 The Nobel Prize: What is it? (Input)
- 第20回 The Nobel Prize: What is it? (Output)
- 第21回 Who are the winners, and why? (Input)
- 第22回 Who are the winners, and why? (Output)
- 第23回 Impact of the prize in our lives (Input)
- 第24回 Impact of the prize in our lives (Output)
- 第25回 Round -up activities
- 第26回 Round -up (Student lead)
- 第27回 Final review (Input)
- 第28回 Closing session

【成績評価の方法】

1. Timely successful completion of class projects in English (35%)
2. Full participation in the classwork (35%)
3. Attendance and personal improvement (30%)

【教科書】

All materials will be provided by the instructor.

【参考文献】

Students should strongly consider having an English-English

dictionary and at least 2GB USB memory for class and home use

【備考】

Skills-based

Fluency

<08生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
商業科教育法 [4] <通期>	
沼田吉昭	4単位

【講義概要】

現在の商業教育は、学習指導要領にある科目以外にも学校設定科目が多くあり、学習内容は以前に比べ広範囲に渡っている。各商業高校はそれぞれ独自のカリキュラムで授業を行っている。各商業高校が実施しているカリキュラムの内容や、コース制・総合選択性・総合学科制などについて講義し、資格取得として商業高校で受験している各種資格試験・検定の紹介もする。その後、商業科の各科目について具体的に解説する。商業科の科目については模擬授業、パソコン実習等をし、演習を通じて知識・技術を習得する。

【学習目標】

高等学校商業科教員を目指す学生を対象にした「高等学校教員（1種）免許取得」のための必修科目である。商業高校で授業を行うために必要な知識・技術の習得を目指す。また商業科教員としての自覚と責任・教育者としての人間力を磨くことも目標とする。講義では、年間指導計画、学習指導案の作成、学習指導法、教材研究、授業で使用する資料・問題プリントの作成、模擬授業を行い実践的な指導をする。

【講義計画】

- 第1回 商業科のカリキュラム変遷
- 第2回 カリキュラム改定の手続き
- 第3回 学校設定科目
- 第4回 商業科科目解説①
- 第5回 商業科科目解説②
- 第6回 商業科科目解説③
- 第7回 商業科科目解説④
- 第8回 商業科科目解説⑤
- 第9回 教材研究・授業展開
- 第10回 学習指導案の作成
- 第11回 模擬授業①
- 第12回 模擬授業②
- 第13回 模擬授業③
- 第14回 模擬授業④
- 第15回 模擬授業⑤
- 第16回 大阪府（市）の商業高校の変遷
- 第17回 年間行事予定
- 第18回 商業科科目解説⑥パソコン（ワード）
- 第19回 商業科科目解説⑦パソコン（ワード）
- 第20回 商業商業科解説⑧パソコン（エクセル）
- 第21回 商業科科目解説⑨パソコン（エクセル）
- 第22回 商業科科目解説⑩パソコン（エクセル）
- 第23回 商業科科目解説⑪パソコン（アクセス）
- 第24回 商業科科目解説⑫パソコン（アクセス）
- 第25回 商業科科目解説⑬パソコン（Photoshop）
- 第26回 商業科科目解説⑭パソコン（Photoshop）
- 第27回 校務分掌
- 第28回 教職員の評価育成システム、教員研修
- 第29回 商業科教員の日常生活
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 20% 出席 50%

主として、出席・課題の提出を重視し、厳しく評価する。なお、授業中に実施する模擬授業の実践面の評価を試験として評価する。レポート提出、出席等も勘案のうえ、総合評価とする。

【教科書】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説（商業編）』実教出版

さ
行

科目名	クラス	講義区分
商業簿記	01 <通期>	金 光 明 雄
商業簿記	02 <通期>	金 光 明 雄
商業簿記	03 <通期>	中 村 恒 彦
商業簿記	04 <通期>	中 村 恒 彦
4 単位		

【講義概要】

今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではありません。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つです。

商業簿記3級は、個人商店を前提として複式簿記による記帳（仕訳・勘定記入）の基礎および簿記一巡の処理の流れを学習していきます。期中処理では、商品売買に係る小切手、手形の取扱いおよびその他の記帳処理が重要な学習内容であり、決算においては、商品売買、受取手形・売掛金、固定資産の決算整理が重要項目となります。また、決算整理後の報告書（損益計算書、貸借対照表）の作成も重要な学習内容です。

【学習目標】

2009年度日商簿記検定試験3級合格

（本講義では、日本商工会議所簿記検定3級を取得することを目的とします）

第122回 日商簿記検定試験3級対策：4－6月

第123回 日商簿記検定試験3級対策：6－11月

第124回 日商簿記検定試験3級対策：11－2月

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 簿記の目的・取引・仕訳
- 第3回 勘定口座への記入方法・試算表
- 第4回 商品売買の記帳方法
- 第5回 現金及び預金の記帳方法
- 第6回 手形の記帳方法（約束手形・為替手形・決済）
- 第7回 手形の記帳方法（割引・裏書）
- 第8回 その他の勘定の記帳方法（有価証券・債権債務・収益・費用）
- 第9回 クラス編成試験
- 第10回 訂正仕訳・主要簿及び補助簿
- 第11回 補助簿および伝票
- 第12回 クラス編成試験結果発表
- 第13回 決算・決算整理（売上原価の計算）
- 第14回 英米式決算法
- 第15回 精算表
- 第16回 その他の決算整理（貸倒れ・減価償却）
- 第17回 その他の決算整理（有形固定資産の売却）
- 第18回 その他の決算整理（繰延べ・見越し・消耗品費と消耗品）
- 第19回 その他の決算整理（現金過不足・現金・売買目的有価証券・引出金）
- 第20回 損益計算書・貸借対照表の作成
- 第21回 総まとめ講義No. 1
- 第22回 総まとめ講義No. 2
- 第23回 総まとめ講義No. 3
- 第24回 答案練習①
- 第25回 答案練習②
- 第26回 答案練習③
- 第27回 答案練習④
- 第28回 答案練習⑤
- 第29回 答案練習⑥
- 第30回 検定試験

【成績評価の方法】

単位修得条件：日商簿記検定試験3級合格（合格点70点）
日本商工会議所の簿記検定は、年三回（6月・11月・2月）に実施されています。

【教科書】

大原簿記学校 ALFA3級商業簿記テキスト
※第一回目から講義をおこないますので、必ずテキストを生協にて購入して受講してください。
大原簿記学校 ALFA3級商業簿記ドリル
大原簿記学校 ALFA3級商業簿記アンサー

【参考文献】

必要があれば、適宜指示します。

【備考】

- ・重要な連絡は、講義内および掲示板にて行いますので、どうしても欠席しなければならない場合は掲示板をよくみてください。
- ・また、上記連絡は、学校のメールアドレスにも配信しますので、携帯メールへの転送設定を怠らないようにしてください。
〔09B生〕のみ履修可

科目名 クラス 講義区分

商業簿記	05 <春集>	金	光	明	雄
商業簿記	06 <春集>	中	村	恒	彦
商業簿記	07 <秋集>	河	合	隆	治
商業簿記	08 <秋集>	金	光	明	雄

4単位

【講義概要】

今日の社会において企業の影響力が増大するにつれ、人々は自己の利益を守るために企業の動向に強い関心をもち、企業に関する情報を必要としています。そのような情報は多くの源泉から入手することができますが、企業活動の経済的側面についての最も優れた情報源泉は、企業の会計が生み出す財務諸表です。しかしこの財務諸表は、簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。簿記は、企業の財政状態や経営成績を知るうえで不可欠な知識となります。

この講義では、日商簿記検定試験3級レベルの複式簿記について学習します。具体的には、企業活動に伴う取引の記帳からはじまり財務諸表の作成にいたるまでを、(1)複式簿記の基礎概念、(2)諸取引の会計処理、(3)決算と財務諸表、の順に解説していきます。また、講義の理解を深めるために、計算演習を多く取り入れる予定です。

【学習目標】

この講義では、日商簿記検定試験3級レベルの複式簿記について、その基本構造を理解し、記帳技術を習得することを目標とします。この講義を終えることによって、日商簿記検定3級程度の複式簿記の知識を得ることができ、財務諸表論、会计学原理、株式会社会計、原価計算システム、管理会計論、税務会計、監査論、経営分析といった科目を学習するための基礎が形成されます。

【講義計画】

- 第1回 簿記の基礎概念、資産・負債・純資産と貸借対照表、収益・費用と損益計算書
- 第2回 簿記上の取引
- 第3回 仕訳
- 第4回 勘定記入
- 第5回 帳簿と証ひょう
- 第6回 第1回から第5回までの復習(問題演習)
- 第7回 現金預金取引
- 第8回 商品売買取引(その1)
- 第9回 商品売買取引(その2)
- 第10回 売掛金・買掛金
- 第11回 その他の債権・債務
- 第12回 第7回から第11回までの復習(問題演習)
- 第13回 手形取引(その1)
- 第14回 手形取引(その2)
- 第15回 有価証券
- 第16回 固定資産
- 第17回 資本金と引出金、税金
- 第18回 第13回から第17回までの復習(問題演習)
- 第19回 決算と財務諸表(決算予備手続～試算表の作成)
- 第20回 決算と財務諸表(決算本手続～決算整理仕訳)
- 第21回 決算と財務諸表(決算本手続～振替仕訳)
- 第22回 決算と財務諸表(決算本手続～仕訳帳・総勘定元帳の締切、繰越試算表の作成)
- 第23回 決算と財務諸表(財務諸表の作成)
- 第24回 決算と財務諸表(精算表の作成)
- 第25回 第19回から第24回までの復習(問題演習)
- 第26回 総合問題演習(その1)
- 第27回 総合問題演習(その2)
- 第28回 総合問題演習(その3)

【成績評価の方法】

試験 100%
期末試験(100点満点)で評価します。

【教科書】

加古宜士・渡部裕亘・片山覚 新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記 中央経済社

【参考文献】

加古宜士・渡部裕亘・片山覚(編著)『新検定 簿記講義 3級』中央経済社、2008年。
中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋(共著)『現代簿記論』中央経

済社、1992年。
その他の参考文献については、必要に応じて授業の中で指示します。

【備考】

[02~08B生]のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
証券論 <春集>	
松尾 順介	4単位

【講義概要】

この講義は、株式の基本、株式の発行市場と流通市場、信用取引やデリバティブまでを対象とする予定である。金融危機の中で、証券市場は急激な変化を経験しているため、最近の変化を踏まえつつ、証券および証券市場、さらには証券取引手法の基本を講義する。

【学習目標】

皆さんが上場企業に就職した場合、その会社は日々株式市場と直面し、敵対的買収に会うかもしれない。大企業だけでなくベンチャー起業家にとっても、証券市場は樹木の根のような不可欠な要素（資金調達手段）である。また、従業員も社員持ち株制度やストックオプション制度で、株式を持つことが多くなった。さらに、インターネット取引は、一般の人々の株式投資を身近なものにした。他方、フィナンシャルプランナーや税理士・会計士を目指す学生にとっても、証券市場の知識は必要不可欠である。そこで、この講義の目的は、株式市場を中心に、証券市場の基本的な制度やルール、さらにその実態の理解を深めることである。証券市場を「ずるがしこく儲ける所」と理解している人も多いが、実は「ルールのかたまり」であり、ルールを順守することで成り立っていることを理解してほしいと思っている。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 日本の個人金融資産と株式投資
- 第3回 株式の基礎 1
- 第4回 株式の基礎 2
- 第5回 株式の基礎 3
- 第6回 株式の基礎 4
- 第7回 株式の基礎 5
- 第8回 株式の持ち合いと企業買収 1
- 第9回 株式の持ち合いと企業買収 2
- 第10回 株式の持ち合いと企業買収 3
- 第11回 株式発行 1
- 第12回 株式発行 2
- 第13回 株式発行 3
- 第14回 株式発行 4
- 第15回 株式の流通 1
- 第16回 株式の流通 2
- 第17回 株式の流通 3
- 第18回 証券取引所の役割 1
- 第19回 証券取引所の役割 2
- 第20回 証券取引所の役割 3
- 第21回 株価指数と投資尺度
- 第22回 信用取引 1
- 第23回 信用取引 2
- 第24回 先物取引 1
- 第25回 先物取引 2
- 第26回 先物取引 3
- 第27回 オプション取引 1
- 第28回 オプション取引 2
- 第29回 オプション取引 3
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
 期末テストで評価する。ただし、毎回の質問状のうちよい質問状は期末評価に加点する。また、課題提出も加点対象とする。なお、出席点は一切考慮しない。

【参考文献】

日本証券経済研究所編『詳説 日本の証券市場2006年版』日本証券経済研究所
 証券広報センター編『証券市場2008』中央経済社
 東京証券取引所編『入門 日本の証券市場』東洋経済新報社
 川村雄介著『最初に読みたい株の教科書』朝日新聞社
 川村雄介著『最新証券市場』財経詳報社

科目名 クラス 講義区分	
商取引法 <秋集>	
瀬谷 ゆり子	4単位

【講義概要】

主に商法総則及び商行為法を対象とする。商法総則は主に個人企業組織に関する通則的な規定として、また商行為法は法人を含む企業取引に関する通則的な規定として位置づけられる。もっとも本講義の対象とすべき範囲は広がっており、また直面する問題も多く、法規制の進展は著しい。したがって、そのような情報も、できるだけ折り込みたいと考えている。

【学習目標】

基幹科目としての民法を学んだ者が、この分野も学ぶことで、企業に特有のルールの必要性を認識し、かつその仕組みを理解することを目標とする。したがって、民法に関し総則の部分は履修済みであることが望ましく、契約の部分が履修済み（履修中）であれば、とりわけ商行為法の理解に有益である。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
商法Ⅲ I（商取引法）の履修に当たって
- 第2回 民法の世界 一取引法の世界一
- 第3回 商法改正と法体系 商法の法的特性と傾向
- 第4回 商法の法源
- 第5回 商人概念 その1
- 第6回 商人概念 その2
- 第7回 商人適格と商人資格
- 第8回 商号と商標
- 第9回 商号の譲渡・相続・廃止・変更 名板貸し
- 第10回 商業帳簿
- 第11回 商業使用人
- 第12回 商業登記制度 商業登記の効力
- 第13回 営業譲渡 その1
- 第14回 営業譲渡 その2
- 第15回 商法総則まとめ
- 第16回 企業取引法総論 商行為概念
- 第17回 消費者取引、消費者契約法
- 第18回 消費者売買 商事売買 その1
- 第19回 商事売買 その2
- 第20回 企業取引の補助者 代理商・仲立人・問屋
- 第21回 他人を利用した取引
- 第22回 運送営業 倉庫営業
- 第23回 場屋営業
- 第24回 金融取引その1
- 第25回 金融取引その2
- 第26回 証券取引
- 第27回 保険取引
- 第28回 商取引 まとめ

【成績評価の方法】

試験 100%
 期間内に数回行うクイズは、加点要素として用いる。

【教科書】

落合誠一他 商法 I 一総則・商行為 有斐閣

【参考文献】

最新の六法を用意すること。
 その他、授業中に指示する。

科目名 クラス 講義区分

情報科教育法 < 通期 >

藤 間 真

4 単位

【講義概要】

本講義は、情報科の教員養成を行う一環として、情報教育の背景理解と方法論獲得を目的とする講義である。

日々、進展する情報化社会は、高等学校における普通教科・専門教科「情報」において、

- ①情報活用の実践力
- ②科学的な理解
- ③情報社会に参画する態度

を系統的・体系的に習得・育成させることを求めている。

その要請にこたえるべく、授業の形態は、講義、演習、模擬授業を組み合わせて展開する。

科目の性質上、毎回、課題を必ず課す予定である。

また教科の性質上、電子メール、表計算、プレゼンテーション等、コンピュータ入門程度の基礎技術は習得していることは当然期待される。

なお、シラバス執筆時において、新指導要領が公開されていないため、授業計画に関して、変更がありうる。この件については、開講時に指示する。また、提出された課題の内容によっても、予定を適宜改編することがありうる。この件については、講義中に扱う。

【学習目標】

高等学校の教科「情報」の教諭一種免許状保持者にふさわしい、情報教育の教育能力を受講生が身につけることが、本講義の目的である。

そのために、教科構造、ねらい、内容、指導法について、系統的・体系的に理解するとともに、授業実施に当たって必要とされる指導計画、教材研究、授業設計、単元設計、実施、評価、改善等に関する理解・能力を体験的に習得することをめざす。

【講義計画】

第1回 オリエンテーション

受講を希望するものは、必ず出席すること。

万やむを得ず欠席する場合は、事前に担当者にメール (m. tohma@andrew. ac. jp)

で連絡すること。

第2回 初等中等教育における情報教育の役割と課題(1)

第3回 初等中等教育における情報教育の役割と課題(2)

第4回 高等学校教科「情報」の教科構造(1)

第5回 高等学校教科「情報」の教科構造(2)

第6回 学習指導要領における普通教科「情報」の目標と内容

第7回 学習指導要領における専門教科「情報」の目標と内容

第8回 「情報」の授業の実際(1)

第9回 年間指導計画の作成(1)

第10回 単元指導計画の作成と内容の取り扱い(1)

第11回 教材研究の実際(1)

第12回 学習指導案の作成(1)

第13回 模擬授業及び評価と改善(1)

第14回 年間指導計画の作成(2)

第15回 春学期のまとめ

第16回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第17回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第18回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第19回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第20回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第21回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第22回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第23回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第24回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第25回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第26回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第27回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第28回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第29回 教材研究・学習指導案の作成・模擬授業及び評価と改善

第30回 秋学期のまとめ

【成績評価の方法】

課題への取り組み、模擬講義等を総合して評価する。

なお、科目の性格上、全回出席することが当然であり、無断欠席は

厳しく減点する。

【参考文献】

高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂出版

情報科教育法 岡本敏雄 丸善

情報科教育法 大岩元 オーム社

情報科教育法 河村一樹 彰国社

情報科教育法 本村猛能 学術図書出版

科目名 クラス 講義区分	
情報機器論 <春>	
桐山和彦	2単位

【講義概要】

現代社会において、情報機器と無縁であることはありえない。携帯電話・端末からスーパーコンピュータに至るまで、あらゆる情報機器はネットワークにつながれ、人々は忙しくその処理に追われている。電子情報技術の急速な進歩によって、これらの情報機器は日々その種類や形を変えて製品化され、実・仮想店舗を問わず膨大な量の情報アイテムが商品として展示されている。我々は状況に応じて氾濫するこれらの情報機器を適切に取捨選択し、効率的に仕事をする必要がある。そのためには、その背景となるネットワーク社会と、それを支える基本的な技術を理解すると同時に、各パーツの使用用途とシステムの概要を学ぶ必要がある。本講義ではまず、現代社会における情報機器の置かれた現状を概観し、コンピュータシステムの概要、携帯端末からインターネットサーバに至るネットワークシステムについて述べると共に、実際にコンテンツ管理システムを用いてインターネット上で情報発信する仕組みについて理解できるように工夫した。

【学習目標】

本講義は、将来ビジネス現場において各種情報機器を使いこなす上で必要なリテラシーを習得し、主体的に情報発信できることを目標としている。このため、コンピュータシステムやインターネットの概要等の講義と共に、実際にコンテンツ管理システムを利用して、Web上に自身のブログ等を書いて情報発信する実習時間を設けている。これによって、より実践的な情報機器利用技術の習得を図ることができる。

【講義計画】

- 第1回 現代社会における情報機器とは
- 第2回 コンピュータシステムの概要
- 第3回 コンピュータ周辺機器の概要
- 第4回 携帯端末と無線通信システムについて
- 第5回 サーバとその機能
- 第6回 インターネットの概要
- 第7回 各種プロトコルについて
- 第8回 コンテンツ管理システム (CMS) の概要
- 第9回 Radiant CMS について
- 第10回 CMS 実習 I-ブログを書く
- 第11回 CMS 実習 II-メディアのアップロード
- 第12回 オペレーティングシステムの役割
- 第13回 Web サーバの機能
- 第14回 制御スクリプトについて
- 第15回 データベースシステムについて

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%

科目名 クラス 講義区分	
情報検索演習 01 <春>	
都築泉	2単位

【講義概要】

図書館の利用者に対するサービスとして、オンライン・オンディスクのデータベースの提供は、現在、大変重要なものとなっている。データベースを利用して種々の情報を引き出す業務を担当する専門家はサーチャー (インフォメーション・スペシャリスト) と呼ばれ、大学図書館・公共図書館・企業内図書館などで活躍している。一方、図書館の役割としては、情報管理者としての立場から利用者が利用しやすい環境を整備することが求められている。また、図書館のみならず、情報検索は、図書館・企業・各種公共団体において必須の業務となっている。この講義では、社会に出てからも必要とされるこのような情報管理・情報検索の基礎知識に関わる内容を概説し、関連の資格である情報検索基礎能力試験への合格に関わる内容を、いくつかのデータベース検索の実例と共に学習する。

【学習目標】

この科目では、1級と2級の上級サーチャーの前段階としての情報検索基礎能力試験 ((社) 情報科学技術協会が行う) を目標において、実践を交えながら学習し、この試験への合格レベルを習得することを目標とする。

当講義の受講には、第1回の講義までに次の条件を満たしておくこと。

1. E-mailアドレスを取得し、メールの送受信ができるようにしておくこと (学内LANのそれでもよい; 携帯メールは対象外)。
2. パソコンキーボードの操作・入力ができること。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報の生産と流通、情報管理
- 第3回 情報検索の基本1-主題分析、一次情報と二次情報
- 第4回 情報検索の基本2
- 第5回 情報検索とコンピュータ・インターネット
- 第6回 情報検索の実際-I
- 第7回 情報利用の問題点
- 第8回 情報検索の基礎事項に関するまとめ
- 第9回 情報検索の実際II
- 第10回 情報の組織化
- 第11回 データベースの歴史、種類等
- 第12回 情報検索の実際III
- 第13回 調査結果のまとめと活用I
- 第14回 調査結果のまとめと活用II
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 50% 出席 0%

【教科書】

原田智子、岸田和明、小山憲司 情報検索の基礎知識 新訂版 2,000円 情報科学技術協会

科目名	クラス	講義区分
情報検索演習 02 <秋>		
川崎 千加	2 単位	

【講義概要】

情報社会における情報検索は多様なメディアの特性を知り、それぞれのテーマに合った適切な情報源を選択し、検索に有効なキーワードを設定し、より信頼性の高い情報を取得することが求められる。

この講義では、インターネット上の有効に活用できるデータベースを中心に、その選択、利用法を実際の検索を通じて学ぶ。図書館におけるデジタルレファレンスだけでなく、他の科目におけるレポートや卒業後の情報探索においても、多様な情報源を知り、より質の高い情報を取捨選択する力は活用できるものである。この授業ではe-learningシステムを使用しており、毎回講義内容からのテストと課題の提出を求める。

【学習目標】

インターネット上の情報源の欠点についても十分理解し、より有効かつ信頼性の高い情報源を選択、活用する力を付けることを目標とする。また、従来のレファレンスブックや図書館が提供するデータベースについても理解を深めることで、多様なメディアを活用した情報検索法を身につけて欲しい。

【講義計画】

- 第1回 ガイドンス及び「検索基礎：一次情報と二次情報」
- 第2回 検索基礎：ローカル書誌検索
- 第3回 検索基礎：表層Web検索（www、サーチエンジン）
- 第4回 検索基礎：書誌検索国内
- 第5回 検索基礎：書誌検索海外
- 第6回 検索応用：雑誌記事検索
- 第7回 検索応用：新聞ニュース検索
- 第8回 検索応用：一般的情報 国語・新語辞典
- 第9回 主題検索：人物・人名検索
- 第10回 主題検索：団体・企業・法律情報
- 第11回 主題検索：地名・地理・地図検索
- 第12回 主題検索：政治経済情報検索
- 第13回 主題検索：統計情報検索
- 第14回 主題検索：生活情報検索

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 40% 出席 30%

実習姿勢（出席及びWeb上のノート）30%、毎週の課題提出40%、毎週の小テスト30%の配分で評価する。

この授業では講義内容から小テストが出題される。講義内容を記録したWeb上のノートと遅刻・早退を含む出席状況が実習姿勢であり、講義出席状況はほぼそのまま小テストや課題の点数に直結するものとなっている。

【教科書】

指定しない

【参考文献】

- 『インターネットで文献探索』2007年版 伊藤 民雄 著 実践女子大学図書館 著 日本図書館協会 1,890円 2007年06月 発行
『情報検索入門ハンドブック』松本勝久 著 勉誠出版 1,890円（税込）2008年08月 発行 ISBN 978-4-585-07124-2
『オンライン情報の学術利用』西岡達裕 著 日本エディタースクール出版部
525円（税込）2008年06月 発行 ISBN 978-4-88888-383-2
『情報検索の基礎知識』新訂版. 原田智子・岸田和明・小山憲司 著 情報科学技術協会, 2006. 7
『情報源としてのレファレンスブック』新版 長澤雅男・石黒祐子 著 日本図書館協会 2004.06 ISBN 978-4-8204-0404-0

科目名	クラス	講義区分
情報検索論A <春>		
志保田 務	2 単位	

【講義概要】

情報検索の基本について、現代社会の情報化傾向とマッチして考察する。

【学習目標】

情報検索の基本の理解が得られるとともに、現代社会の情報化傾向といかに対処しているか、受講者の思考を促す。

【講義計画】

- 第1回 (1-2) 情報検索の意味的理解：定義、範囲、用語など
- 第2回 情報検索の歴史面の理解：コンピュータ以前の情報検索
- 第3回 現代社会と情報検索：コンピュータピア、生活と情報の検索
- 第4回 実業、経営における情報検索の位相
- 第5回 情報検索の空間
- 第6回 情報と著作権問題
- 第7回 検索ルート：検索エンジン、有料・無料サイトなど
- 第8回 検索機器：オンライン、モバイル、携帯電話
- 第9回 検索内容パターンと、検索方法パターン
- 第10回 ファクトリトリバルとドキュメントリトリバル
- 第11回 ファクトデータベースとレファレンスデータベース
- 第12回 書誌情報
- 第13回 図書館情報学
- 第14回 索引作りとパスファインダー
- 第15回 総合

【成績評価の方法】

試験 85% レポート 15% 出席 5%

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

必要に応じて指定する。

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分		
情報検索論B <秋>		
志保田	務	2単位

【講義概要】

情報検索について、文系、社会科学系からのアプローチをする。なお、講義計画の「3-7」は<講義>-<演習>の2本立てである。

【学習目標】

情報検索がどういうものを指し、どういったところで活かれているか、今日的にどのような価値を有するかを論じるその上で、技術的な把握、たとえば、各種検索エンジン、ゲートウェイ、ポータルサイトなどの評価を行う。技術実習は、人数的な問題から、宿題にすることが多いが、これへの応答を学内ホームページNile 2 lesson tshihota及びメールで行う。

【講義計画】

- 第1回 「情報」の定義
- 第2回 社会基盤としての情報、インターネット
- 第3回 「情報」の種類とその歴史 1 「情報」、「メディア」、「資料」
- 第4回 「情報」の種類とその歴史 2 一次情報（資料）、二次情報（資料）
- 第5回 情報管理のプロセス
- 第6回 情報管理と情報サービス機関
- 第7回 情報検索の種類と歴史
- 第8回 情報検索の理論と技法
- 第9回 インターネットの歴史
- 第10回 インターネットの仕組み
- 第11回 情報社会：の光と影
- 第12回 情報化政策：日本における
- 第13回 情報化社会と標準化
- 第14回 検索エンジンとデータベース
- 第15回 総合

【成績評価の方法】

試験 85% レポート 15% 出席 5%

【教科書】

原田智子 [ほか] 情報検索の基礎知識 最新版 情報科学記述協会

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分		
情報サービス演習 <秋>		
谷本	達哉	2単位

【講義概要】

図書館の情報サービス（レファレンスサービス）とは、私たちが求めるあらゆる情報に対応するために準備されています。この科目では、講義科目「情報サービス概説」で学んだ知識を基本とし、個々の利用者から寄せられるさまざまな情報ニーズ（質問）に対して、図書館の情報資源（レファレンスツール）を活用した情報提供（回答）の手法について学びます。

【学習目標】

演習形式の授業を中心として、図書館のレファレンスツール（情報資源）を活用して利用者の質問（情報ニーズ）に対応する回答（情報）を検索する、その具体的な方法について触れます。このことを通して、図書館の情報サービス（レファレンスサービス）を実践的に捉えることを目指します。

【講義計画】

- 第1回 情報サービス（レファレンスサービス）の実際について、次のような内容について学びます。
○情報サービス（レファレンスサービス）入門
- 第2回 ○情報サービス（レファレンスサービス）の実際
- 第3回 ○情報サービス（レファレンスサービス）の過程
- 第4回 ○情報源・レファレンスツールとその種類①
- 第5回 ○情報源・レファレンスツールとその種類②
- 第6回 ○演習①：文字・言語に関する質問
- 第7回 ○演習②：事物に関する質問
- 第8回 ○演習③：歴史・時事に関する質問
- 第9回 ○演習④：地理・地名に関する質問
- 第10回 ○演習⑤：人物・団体に関する質問
- 第11回 ○演習⑥：著作・図書に関する質問
- 第12回 ○演習⑦：逐次刊行物に関する質問
- 第13回 ○演習⑧：総合演習
- 第14回 ○事例：レファレンスブックの解題評価、パスファインダーの意義
- 第15回 ○まとめ

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の課題・演習、出席や受講態度を重視します。また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的に熱心な姿勢を求めます。なお、できる限り、講義科目の「情報サービス概説」の履修を済ませてからの受講が望ましいです。

【教科書】

西田文男監修 情報サービス：概説とレファレンスサービス演習・第3版 学芸図書

科目名	クラス	講義区分
情報サービス概説 <春>		
谷本達哉	2単位	

【講義概要】

わたしたちの身の回りに溢れる情報の海、自身が直面する様々な問題や疑問を解決するためには、必要とする情報を的確に入手する手段が求められます。この授業では、情報センターとしての図書館が準備する“社会的な（わたしたちの）情報入手のための手段としての「情報サービス」”について考えます。

【学習目標】

授業（講義全体）を通じて、図書館が提供する“情報アクセスのための手段＝「情報サービス」”についての総合的な理解と基本的な活用方法、さらにその重要性について学びます。

【講義計画】

- 第1回 図書館の情報サービスについて、毎回、次のような内容について論じます。○図書館の情報サービスとは何か
- 第2回 ○図書館で“知りたいものを探す”ための基礎
- 第3回 ○調べもの探し：情報サービス簡単演習
- 第4回 ○情報サービス、調べものサービスの手法①
- 第5回 ○情報サービス、調べものサービスの手法②
- 第6回 ○情報サービス、調べものサービスの種類①
- 第7回 ○情報サービス、調べものサービスの種類②
- 第8回 ○情報サービス、調べものサービスの種類③
- 第9回 ○情報サービス、調べものサービスの道具：（レファレンスツール）①
- 第10回 ○情報サービス、調べものサービスの道具：（レファレンスツール）②
- 第11回 ○情報サービス各論① レファレンスコレクションの選択・収集・組織化
- 第12回 ○情報サービス各論② サービスの管理：組織・体制
- 第13回 ○情報サービス各論③ 情報サービスの理論Ⅰ
- 第14回 ○情報サービス各論③ 情報サービスの理論Ⅱ
- 第15回 ○まとめ

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の課題、出席や受講態度を重視します。また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的に熱心な姿勢を求めます。

【教科書】

西田文男監修 情報サービス：概説とレファレンスサービス演習・第3版 学芸図書

科目名	クラス	講義区分
情報システム論 <通期>		
芦田昌也	4単位	

【講義概要】

社会や経済活動の基盤施設から個人の情報活用に至るまで、情報システムは私たちの生活に深く入り込んでいる。この講義では、こうした情報システムを、人・情報・コミュニケーション・ネットワーク・社会などとの関連で捉えていきたい。

前期は、人と情報、コミュニケーションとネットワークなどについて理解を深め、情報システムを構成する要素技術について解説する。後期は、情報システムに関する基礎的な知識と社会での活用形態や開発方法などに関して講義する。また、情報システムの利用者として身につけるべき情報セキュリティや倫理についても解説する。

【学習目標】

情報システムに関する基礎的な知識と、情報システムをとりまくさまざまな技術について理解することが少なくとも必要である。標準的には、それらの理解に加え、社会や企業における情報システムの活用事例やその変遷について理解することが求められる。最終的には、これらの知識や理解に基づいて、人や社会との関わりという観点から情報システムについて議論できるようになることが望ましい。

【講義計画】

- 第1回 情報と人間
- 第2回 情報とコミュニケーション
- 第3回 コミュニケーションモデル
- 第4回 コミュニケーションと理解
- 第5回 コンピュータシステム
- 第6回 ユーザインタフェースの基礎概念
- 第7回 情報とネットワーク
- 第8回 情報通信と情報のデジタル化
- 第9回 情報通信の仮想化と階層化
- 第10回 コミュニケーションモデルと通信プロトコル
- 第11回 情報ネットワークの仕組み
- 第12回 インターネットを支える仕組み
- 第13回 インターネットのアプリケーション
- 第14回 インターネットの検索システム
- 第15回 情報システム
- 第16回 情報システムの評価
- 第17回 企業活動と情報システム
- 第18回 企業情報システムの事例
- 第19回 企業情報システムの変遷
- 第20回 社会基盤としての情報システム
- 第21回 情報システムの課題
- 第22回 情報システム技術の将来
- 第23回 情報セキュリティ
- 第24回 暗号化技術
- 第25回 情報セキュリティの課題と対策
- 第26回 情報社会
- 第27回 情報社会におけるコミュニケーション
- 第28回 情報システムと社会の変遷

【成績評価の方法】

前期終了時に実施する中間試験の成績、後期終了時に実施する期末試験の成績、および出席状況と受講態度により総合的に評価する。

【教科書】

川合 慧 監修・駒谷昇一 編著 情報と社会 オーム社

【参考文献】

神沼 靖子 編著「情報システム基礎」オーム社
川合 慧 監修・河村一樹 編著「情報とコンピューティング」オーム社

科目名 クラス 講義区分	
情報組織論A <春>	
牧野丹奈子	2単位

【講義概要】

情報化社会の今日、企業には新しい知識を次々と生み続けることが求められている。しかし、画期的な知識を生み続けることは易しいことではない。

では、どのような組織ならば、新しい画期的な知識を次々と生み出せるのか。どのような組織構造や職場が望ましいのか。

本講義では、このような問題に対して、企業組織をひとつの“システム”とみなしながら取り組んでいく。

つまりこの講義では、“情報化社会では、どのような組織が成功するのか”を、システム論や事例研究を用いながら学習することになる。

【学習目標】

毎時間、「聴く」だけでなく、「考える」講義を目指したい。抽象的なことばも、具体的にイメージできるようになってほしい。

この講義では、毎時間の最後に用紙を配り、各自が考察したことや感想を書いてもらう。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（注意事項と基礎知識）
- 第2回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か（多様性）
- 第3回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か（多元的な視点）
- 第4回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か（効率的な情報処理と組織その1）
- 第5回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か（効率的な情報処理と組織その2）
- 第6回 情報化社会で個人に必要な能力とは何か（情報と権限）
- 第7回 情報化社会で個人に必要な能力とは何か（やる気）
- 第8回 組織をどのようにとらえるか（5つの組織論）
- 第9回 組織をどのようにとらえるか（社会システムの特徴）
- 第10回 組織をどのようにとらえるか（職場と会社）
- 第11回 日本人と「行為空間」
- 第12回 信頼の重要性
- 第13回 情報と物質とのちがい
- 第14回 総復習と理解度チェック

【成績評価の方法】

試験 100%
ただし、講義中の態度や小レポートなどを平常点として、試験の点数にとりいれる場合もある。

【教科書】

牧野丹奈子 経営の自己組織化論 日本評論社

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
情報組織論B <秋>	
牧野丹奈子	2単位

【講義概要】

最近、「現場力」ということばをよく聞く。現場の力は企業経営の大きな強みである。特に情報化社会においては、現場をうまくマネジメントすることが企業経営の重要な課題となる。ところが現実をみても、現場が計画通りにいかないことが多い。なぜ、現場は計画通りにいかないのか。これは全ての現場が抱える大きな問題である。

本講義では、現場で働く個人の視点に立って、この現場の問題を考えてみる。さまざまな企業事例やシステム論を交えながら、実際に現場で働く人の身になって学習していく。

【学習目標】

毎時間、「聴く」だけでなく、「考える」講義を目指したい。抽象的なことばも、具体的にイメージできるようになってほしい。

この講義では、毎時間の最後に用紙を配り、各自が考察したことや感想を書いてもらう。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（注意事項と基礎知識）
- 第2回 現場における計画と行為（その1）
- 第3回 現場における計画と行為（その2）
- 第4回 二つの情報空間（その1）
- 第5回 二つの情報空間（その2）
- 第6回 個人の内的視点（その1）
- 第7回 個人の内的視点（その2）
- 第8回 個人の内的視点（その3）
- 第9回 身体行為と意味（その1）
- 第10回 身体行為と意味（その2）
- 第11回 身体行為と知識創発（その1）
- 第12回 身体行為と知識創発（その2）
- 第13回 企業の社会性と労働の社会性
- 第14回 総復習と理解度チェック

【成績評価の方法】

試験 100%
ただし、講義中の態度や小レポートなどを平常点として、試験の点数にとりいれる場合もある。

【教科書】

牧野丹奈子 現場視点の経営学 晃洋書房

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
情報と職業 <通期>		
小林利臣	4単位	

【講義概要】

情報システムの進展によって、社会・ビジネスの「あり方・ありよう」は大きく変化している。変化する情報化社会で生きていくためには、変化の本質、今後どう変化していくかを理解できなければならない。

第1部（情報システムの進展による社会の変化、第1回～第4回）では、コンピュータ・情報システムの進展、およびインターネットの出現を背景に、「社会がどう変化し」、「情報に関わる職業の雇用状況がどう変化しつつあるのか」を学ぶ。

第2部（情報ビジネスと職業、第5回～第20回）では、さらに詳しく企業における情報システムの活用、およびビジネスモデルの変化を調べ、「情報に関わる職業にはどんな職種があるのか」、一般企業に就職した場合「情報システム利用者として情報とどういった関わりをするのか」を学ぶ。

第3部（職業としての情報教育、第21回～第22回）では、教科「情報」を教えることを考えている人のために、教科「情報」の概要・授業計画を調べ、「教科「情報」教育者としての心構え」を学ぶ。

第4部（情報化社会と個人、第23回～第30回）では、企業における会社組織と個人の関係、および情報化社会における法制度などを学び、「情報関連分野における職業観」を涵養する。

情報に関わる職業につき、仕事していくには、単に「情報に関する知識」を身に付けるだけでは不十分であり、「情報に関する考え方」を身に付ける必要がある。本講義では「考える」こと身に付けたいと考える人向けに構成している。

【学習目標】

教科「情報」を教えることを考えている人、および情報に関わる職業につくことを考えている人を 対象に

情報システムとはなにか

情報システムと情報化社会のかかわり

企業活動におけるビジネスモデルとそれを支える情報システム

情報関連分野における職業観（法律、資格、倫理なども含む）

を理解してもらうことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 情報システムとは
- 第2回 情報システムの進展
- 第3回 インターネットの出現とその影響(1)
- 第4回 インターネットの出現とその影響(2)
- 第5回 企業における情報システムの活用－基幹システム(1)
- 第6回 企業における情報システムの活用－基幹システム(2)
- 第7回 企業における情報システムの活用－情報システム導入の考え方
- 第8回 企業における情報システムの活用－情報系システム
- 第9回 企業情報システムの新しい方向－EC
- 第10回 企業情報システムの新しい方向－SCM
- 第11回 企業情報システムの新しい方向－企業経営へのインパクト
- 第12回 新しいビジネスモデル－ビジネスモデルとは
- 第13回 新しいビジネスモデル－ビジネスモデルの研究
- 第14回 これまでのまとめ
- 第15回 中間試験（講義内）
- 第16回 情報関連の職業－新しい職種の出現
- 第17回 情報関連の職業－雇用形態の多様化
- 第18回 情報関連の職業－企業研究演習
- 第19回 情報管理技術－情報技術
- 第20回 情報管理技術－管理技術
- 第21回 教科「情報」の概要
- 第22回 教員としての心構え
- 第23回 企業における会社と組織と個人の関係
- 第24回 情報化社会での生き甲斐
- 第25回 就職活動と情報
- 第26回 法律と情報倫理(1)
- 第27回 法律と情報倫理(2)
- 第28回 これからの情報化社会
- 第29回 総合まとめ
- 第30回 期末試験（講義内）

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 70% 出席 0%

講義時の課題レポート、および中間試験・期末試験（ともにノートのみ持ち込み可）で、評価する。

上記は比率配分は目安です。詳細は講義内で説明します。

【教科書】

特になし。毎回講義時に資料を配布する。

【参考文献】

近藤勲編著：情報と職業、丸善（2002）

澁澤健太郎他著：情報教育のための基礎知識、NTT出版（2003）

科目名 クラス 講義区分	
職業指導 <通期>	
植田勝美<春> 柴田正己<秋>	4単位

【講義概要】

職業を選ぶということは、自分の人生を選ぶことでもある。近年、学校を卒業しても進学をしない、就職もしない。また、離職して次の就職先がみつからなかったりして、アルバイトとして働いている若者がふえている。中学校・高等学校の教育や進路指導のあり方にもさまざまな要因があるのではないだろうか。この講義では、職業指導の現状や問題点をあげて、学校における適切な進路指導について考察する。また、職業指導を行うための基礎的な知識・技術の修得を目標とする。なお、この科目は高等学校の商業・工業などの実業科目の教員免許取得に必要な科目でもあり、春学期においては、「教員」の様々な仕事（校務分掌、部活動指導等）にも触れ、教員の实情についても講義する。

【学習目標】

勤労観・職業観などの育成をめざすと共に、自分自身の今後の人生についても、さまざまな角度から真摯に考えることができるような人物の育成が目標である。

【講義計画】

- 第1回 「教員」の仕事について
- 第2回 「教員」の仕事について
- 第3回 「教員」の仕事について
- 第4回 「教員」の仕事について
- 第5回 職業指導と進路指導
- 第6回 職業指導と進路指導
- 第7回 職業指導と進路指導
- 第8回 学校現場における進路指導
- 第9回 学校現場における進路指導
- 第10回 学校現場における進路指導
- 第11回 進路指導の課題と展望
- 第12回 進路指導の課題と展望
- 第13回 進路指導の課題と展望
- 第14回 進路指導の課題と展望
- 第15回 進路指導の課題と展望
- 第16回 職業指導と日本の近代化
- 第17回 職業指導と日本の近代化
- 第18回 職業指導と日本の近代化
- 第19回 現代社会と職業観
- 第20回 現代社会と職業観
- 第21回 現代社会と職業観
- 第22回 産業社会と職業構造
- 第23回 産業社会と職業構造
- 第24回 産業社会と職業構造
- 第25回 人生と進路の選択
- 第26回 人生と進路の選択
- 第27回 人生と進路の選択
- 第28回 人生と進路の選択
- 第29回 人生と進路の選択
- 第30回 人生と進路の選択

【成績評価の方法】

・通年の授業ではあるが、春学期・秋学期の担当者が異なるので注意する。
春学期及び秋学期それぞれの講義時のレポート（期日厳守）、出席状況等で総合的に評価する。
ただし、全講義回数の5割以上の欠席は評価対象外とする。

【教科書】

特になし。必要に応じて講義時に資料を配布する。

【参考文献】

春学期
仙崎武他編「入門 進路指導・相談」福村出版
秋学期
柴田正己他共著「新しさと旧さが競う街」桃山学院大学総合研究所（2004年）

【備考】

通年の授業ではあるが、春学期・秋学期の担当者が異なるので注意する事。

科目名 クラス 講義区分	
資料特論 <秋>	
藤間真	2単位

【講義概要】

行政資料、郷土資料、視聴覚資料、および電子資料等に関して、学内外の講師から話を伺います。
各回の具体的な内容と担当者はシラバス執筆時（2008年12月）現在、交渉中です。確定した段階で担当者のwebサイト（<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma>）にて公開する予定です。

【学習目標】

公共図書館に勤務する司書として必要な知識である、行政資料・郷土資料・視聴覚資料・電子資料などについて、その特徴、収集、利用等を把握してもらうことが、本講義の目的です。

【講義計画】

- 第1回 各回の題目・講師はシラバス執筆時（2008年12月）現在、交渉中なので、下記はあくまで予定です。確定した段階で担当者のwebサイト（<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma>）にて公開する予定です。
第一回は講義全体の方向性を扱います。受講希望者は、かならず出席してください。万やむを得ず欠席する場合は、事前に担当者にメール（m.tohma@andrew.ac.jp）で相談してください。
- 第2回 行政資料と図書館
- 第3回 行政資料と図書館
- 第4回 行政資料と情報公開
- 第5回 行政資料と情報公開
- 第6回 行政資料の保存
- 第7回 行政資料の保存
- 第8回 郷土資料と図書館
- 第9回 郷土資料と図書館
- 第10回 郷土資料と図書館
- 第11回 視聴覚資料と図書館
- 第12回 視聴覚資料と図書館
- 第13回 電子資料と図書館
- 第14回 電子資料と図書館
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

出席 100%
出席が100%になっていますが、これは、物理的に出席していれば単位が認定されるという意味ではありません。
レポートや授業後の小テストによって、各回ごとに理解度を評価し、その総合点で単位を認定するという意味です。

【参考文献】

講義の進展状況に応じて指示します。

【備考】

インテグレーション科目